

# 長岡京市文化財調査報告書

第 78 冊

2 0 2 2

長岡京市教育委員会

編集 公益財團法人 長岡京市埋蔵文化財センター

# 長岡京市文化財調査報告書

第 78 冊

2 0 2 2

長岡京市教育委員会

編集 公益財團法人 長岡京市埋蔵文化財センター





(1) 炉壁



(2) 平らな炉壁と金属滓が付着する炉壁



## 序 文

私たちの長岡市は、豊かな水と緑に恵まれた良好な環境と大都市を結ぶ交通の利便性により発展してきたまちです。

古くは旧石器時代から人々が生活を営んだことがわかつており、特に 784 年に「長岡京」という当時のわが国の都が置かれた地として、全国的に知られています。

また、市内には史跡乙訓古墳群を構成する首長墓や、勝龍寺城などの城館跡、乙訓寺・長岡天満宮といった神社仏閣など、数多くの文化遺産が存在し、現代に至るまで豊かな歴史と文化を守り育んできました。

しかし、こうした遺跡は、まちの発展の一方でかつての姿が失われつつあります。本市では、これらの遺跡の調査・保護に力を入れるとともに普及・啓発に努め、地域全体で風土や文化遺産を守るまちづくりを進めています。

さて、本報告書は令和 3 年度に長岡市教育委員会が実施した発掘調査と詳細分布調査の成果をまとめたものです。

長岡京跡右京第 1244 次調査と右京第 1251 次調査は、勝龍寺城下の松井屋敷と帶曲輪が推定される場所で実施したもので、勝龍寺城に関連する区画溝や江戸時代の建物跡、長岡京期の条坊側溝など貴重な成果が得られました。また、乙訓寺第 29 次調査は、創建時から長岡京期の中心伽藍を探るために実施し、最初の調査から 55 年ぶりに正方位を指向する門と回廊に相当する掘立柱建物を確認しました。

詳細分布調査では、市域の約半分を占める市街地のほぼ全域を包括する長岡京跡やその他の遺跡に関する情報の蓄積が進んでいます。

最後になりましたが、発掘調査にあたり数々のご助力をいただきました土地所有者や地元協力者の方々、ご指導・ご助言をいただいた諸先生方並びに調査を担当していただいた公益財団法人長岡市埋蔵文化財センターなどの関係機関に深く感謝いたします。

本書が文化財保護の普及・啓発の一助となり、また地域学習の資料として広く活用いただければ幸いです。

令和 4 年 3 月

長岡市教育委員会

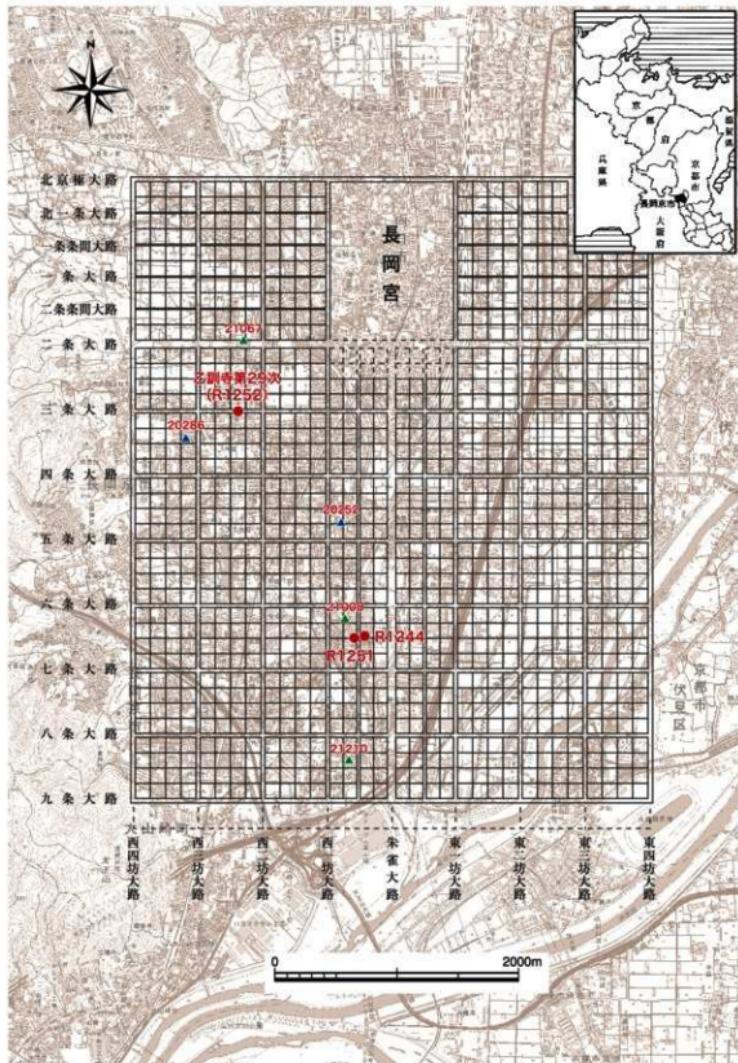
教育長 西 村 文 則

## 凡 例

1. 本書は、長岡京市教育委員会が国庫補助事業として公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センターに事業を委託して実施した、令和3年度の発掘調査および令和2・3年度の詳細分布調査に関する概要報告である。
2. 調査対象地は、第1図および付表-1に表示した。
3. 長岡京跡の調査次数は、右京城と左京城に分けて通算したものである。また、調査地区名は、前半が奈良文化財研究所の遺跡分類表示、後半が京都府教育委員会『埋蔵文化財発掘調査概報』(1977年)収録の旧大字小字名による地区割りと同地区内における調査回数を示す。
4. 長岡京跡の条坊名称は、山中章「古代条坊制論」『考古学研究』第38巻第4号(1992年)の復原案に従った。
5. 本書で使用する地形区分は、特に断らない限り「長岡京市域地形分類図」「長岡京市史」資料編一(1991年)によった。
6. 各章(注)に示した報告書のうち使用頻度の高いものは、「長岡京市埋蔵文化財発掘調査資料選」(十)公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター(2018年)に従って略記した。
7. 本書において使用している遺構番号は、長岡京跡に関する調査の場合、調査次数+番号であるが、煩雑さを避けるため、調査次数を省略している。「SD01」の場合、調査次数を冠した「SD ○○○○○01」が正式な番号である。
8. 本書で使用している方位と国土座標値は、世界測地系の第VI系によっている。
9. 本書の挿図の土層名で〈〉を付けて表示した記号は、「新版標準土色帳」(1997年版)のJIS表記法による土色名である。
10. 図版の遺物写真は、公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所に撮影を依頼した。
11. 本書は、各章冒頭記載の調査担当者が執筆し、全体の編集は技術補佐員・整理員の協力のもと原秀樹が行った。

付表-1 本書報告調査地一覧表

調査次数	地区名	所在地	現地調査期間	面積	備考
長岡京跡右京第1244次調査	7AN MNC-1	長岡京市東神足二丁目223他	2021年5月24日 ～ 2021年6月11日	87m <sup>2</sup>	中世勝龍寺城跡 神足遺跡
長岡京跡右京第1251次調査	7AN MNC-2	長岡京市東神足二丁目215-6・7	2021年9月29日 ～ 2021年9月30日	9m <sup>2</sup>	中世勝龍寺城跡 神足遺跡
乙訓寺第29次調査 (長岡京跡右京第1252次)	7AN IHR-14	長岡京市今里三丁目地内	2021年11月1日 ～ 2021年12月23日	142m <sup>2</sup>	乙訓寺 今里遺跡
令和2年度詳細分布調査	付表-2参照				
令和3年度詳細分布調査	付表-3参照				



第1図 長岡京と調査地の位置 (1/40000)

## 本文 目 次

### 第1章 長岡京跡右京第1244次（7AN MNC-1地区）調査概要

1	はじめに		1
2	調査経過		4
3	検出遺構		5
4	出土遺物		6
5	まとめ		12

### 第2章 長岡京跡右京第1251次（7AN MNC-2地区）調査概要

1	はじめに		13
2	調査経過		14
3	検出遺構		14
4	出土遺物		14
5	まとめ		16

### 第3章 乙訓寺第29次調査概要

#### —長岡京跡右京第1252次（7AN IHR-14地区）調査—

1	はじめに		17
2	調査経過		18
3	基本層序		18
4	検出遺構		19
5	まとめ		24

### 第4章 長岡京市内遺跡詳細分布調査概要

1	はじめに		27
2	調査概要		27
3	主な調査成果		28

## 卷頭図版

- 卷頭図版 1 (1) 炉壁  
 (2) 平らな炉壁と金属滓が付着する炉壁

## 図版目次

### 長岡京跡右京第 1244 次調査

- |                        |  |
|------------------------|--|
| 図版 1 調査地全景（南から）        |  |
| 図版 2 (1) 調査地全景（北から）    | (2) 埋甕 SX03（北から）                                     |
| 図版 3 (1) 埋甕 SX03（北東から） | (2) 溝 SD17 土器出土状況（東から）<br>(3) 溝 SD17 土器出土状況（西から）     |
| 図版 4 (1) 土坑 SK18（北東から） | (2) 土坑 SX12 土器出土状況（北東から）<br>(3) 土坑 SX12 土器出土状況（南西から） |
| 図版 5 近世の土師器皿           |  |
| 図版 6 (1) 中世の瓦器・陶器・青磁   | (2) 長岡京期の土師器・須恵器                                     |
| 図版 7 (1) 弥生土器          | (2) 弥生土器・土師器・須恵器                                     |
| 図版 8 (1) 砥石・硯・泥面子      | (2) 平らな炉壁と金属滓が付着する炉壁                                 |
| 図版 9 (1) 曲面のある炉壁       | (2) 炉壁細片   |

### 長岡京跡右京第 1251 次調査

- |                                |  |
|--------------------------------|--|
| 図版 10 (1) 検出状況全景（西から）          | (2) 検出状況全景（東から）<br>(3) 完掘状況全景（西から）           |
| 図版 11 (1) 溝 SD01・02 検出状況（北東から） | (2) 溝 SD01・02 完掘状況（北東から）                     |
| 図版 12 (1) 溝 SD02 検出状況（北から）     | (2) 溝 SD01 検出状況（北から）<br>(3) 溝 SD02 完掘状況（北から） |
| 図版 13 (1) 調査開始前（西から）           | (2) 調査終了後（西から）<br>(3) 出土遺物                   |
| 図版 14 調査区全景（南東から）              |  |

**乙訓寺第 29 次調査 — 長岡京跡右京第 1252 次調査 —**

- |                                 |                                       |
|---------------------------------|---------------------------------------|
| 図版 15 (1) 調査区全景 (東から)           | (2) 調査区全景 (北から)                       |
| 図版 16 (1) 堀立柱建物 SB101 (北から)     | (2) 堀立柱建物 SB101 (南から)                 |
| (3) 柱穴 SK18 (北から)               | (4) 柱穴 SK18 (南から)                     |
| (5) 柱穴 SK18 柱痕跡 (北東から)          | (6) 柱穴 SK18 挖形埋土 (南西から)               |
| 図版 17 (1) 柱穴 SK34 (北から)         | (2) 柱穴 SK34 (東から)                     |
| (3) 柱穴 SK34 堆積状況 (北から)          | (4) 柱穴 SK34 断ち割り (北西から)               |
| (5) 柱穴 SK39 (北から)               | (6) 柱穴 SK39 (南から)                     |
| (7) 柱穴 SK39 堆積状況 (南から)          | (8) 柱穴 SK39 堆積状況 (北東から)               |
| 図版 18 (1) 堀立柱建物 SB102 (東から)     | (2) 堀立柱建物 SB102 南柱列 (東から)             |
| (3) 堀立柱建物 SB102 北柱列 (東から)       | (4) 堀立柱建物 SB102 北柱列<br>(西から、手前は SK34) |
| 図版 19 (1) 柱穴 SK21 検出状況 (北から)    | (2) 柱穴 SK21 挖削状況 (南から)                |
| (3) 柱穴 SK21 堆積状況 (南東から)         | (4) 柱穴 SK21 堆積状況 (北東から)               |
| (5) 柱穴 SK22 検出状況 (北から)          | (6) 柱穴 SK22 (南東から)                    |
| (7) 柱穴 SK22 堆積状況 (西から)          | (8) 柱穴 SK22 堆積状況 (南東から)               |
| 図版 20 (1) 柱穴 SK23 (南東から)        | (2) 柱穴 SK23 堆積状況 (北から)                |
| (3) 柱穴 SK23 堆積状況 (北から)          | (4) 柱穴 SK35 検出状況 (西から)                |
| (5) 柱穴 SK35 挖削状況 (西から)          | (6) 柱穴 SK35 挖削状況 (東から)                |
| (7) 柱穴 SK35 堆積状況 (西から)          | (8) 柱穴 SK35 堆積状況 (東から)                |
| 図版 21 (1) 柱穴 SK38 (南から)         | (2) 柱穴 SK38 (北から)                     |
| (3) 柱穴 SK38 堆積状況 (南東から)         | (4) 柱穴 SK38 堆積状況 (北西から)               |
| (5) 柱穴 SK24 検出状況 (南から)          | (6) 柱穴 SK24 (北から)                     |
| (7) 柱穴 SK24 堆積状況 (北西から)         | (8) 柱穴 SK24 堆積状況 (南西から)               |
| 図版 22 (1) 柱穴 SK25 検出状況 (北から)    | (2) 柱穴 SK25 検出状況 (北西から)               |
| (3) 柱穴 SK25 (北から)               | (4) 柱穴 SK25 堆積状況 (北西から)               |
| (5) 柱穴 P43 (北から)                | (6) 柱穴 SK28 (南から)                     |
| 図版 23 (1) 土坑 SK07 土器検出状況 (北西から) | (2) 廃棄土坑 SK13 (南西から)                  |
| 図版 24 (1) 土坑 SK16 (南から)         | (2) 土坑 SK16 (南西から)                    |
| 図版 25 (1) 瓦溜まり SX10 (南西から)      | (2) 瓦溜まり SX10 (南から)                   |
| 図版 26 (1) 土坑 SK27 (北から)         | (2) 土坑 SK37 (東から)                     |
| (3) 土壙墓 SK31 (北東から)             |                                       |

## 挿 図 目 次

第 1 図 長岡京と調査地の位置 (1/40000) .....	iii
<b>長岡京跡右京第 1244 次調査</b>	
第 2 図 発掘調査地位置図 (1/5000) .....	1
第 3 図 調査区検出遺構図 (1/100) .....	2
第 4 図 調査区東壁土層図 (1/50) .....	3
第 5 図 調査区北壁・西壁(北) 土層図 (1/50) .....	4
第 6 図 調査区西壁(南) 土層図 (1/50) .....	6
第 7 図 出土遺物実測図-江戸 1 (1/4) .....	7
第 8 図 出土遺物実測図-江戸 2 (1/4) .....	8
第 9 図 出土遺物実測図-中世 (1/4) .....	9
第 10 図 出土遺物実測図-長岡 (1/4) .....	9
第 11 図 出土遺物実測図-弥生 (1/4) .....	10
第 12 図 出土砥石実測図 (1/6) .....	10
第 13 図 勝龍寺城縄張図 (1/5000) .....	11
<b>長岡京跡右京第 1251 次調査</b>	
第 14 図 発掘調査地位置図 (1/5000) .....	13
第 15 図 調査区検出遺構図・土層図 (1/50) .....	15
第 16 図 出土遺物実測図 (1/4) .....	16
<b>乙訓寺第 29 次調査 — 長岡京跡右京第 1252 次調査 —</b>	
第 17 図 発掘調査地位置図 (1/5000) .....	17
第 18 図 第 1 遺構面(中・近世) 検出遺構図 (1/80) .....	20
第 19 図 第 2 遺構面(長岡京期・古墳) 検出遺構図 (1/80) .....	21
第 20 図 調査区土層図・中央セクション断面図 (1/50) .....	23
第 21 図 古代乙訓寺全体図 (1/500) .....	25
<b>長岡京市内遺跡詳細分布調査</b>	
第 22 図 第 20252 次調査地位置図 (1/5000) .....	28
第 23 図 第 20252 次調査の小穴全景(東から) .....	28

第24図 第20286次調査地位置図(1/5000) .....	28
第25図 第20286次調査の断面(北から) .....	28
第26図 第21008次調査地位置図(1/5000) .....	29
第27図 第21008次調査全景(南から) .....	29
第28図 第21008次調査出土遺物実測図 .....	30
第29図 第21008次調査出土遺物 .....	30
第30図 第21067次調査地位置図(1/5000) .....	31
第31図 第21067次調査の土坑全景(西から) .....	31
第32図 第21210次調査地位置図(1/5000) .....	31
第33図 第21210次調査の溝全景(西から) .....	31

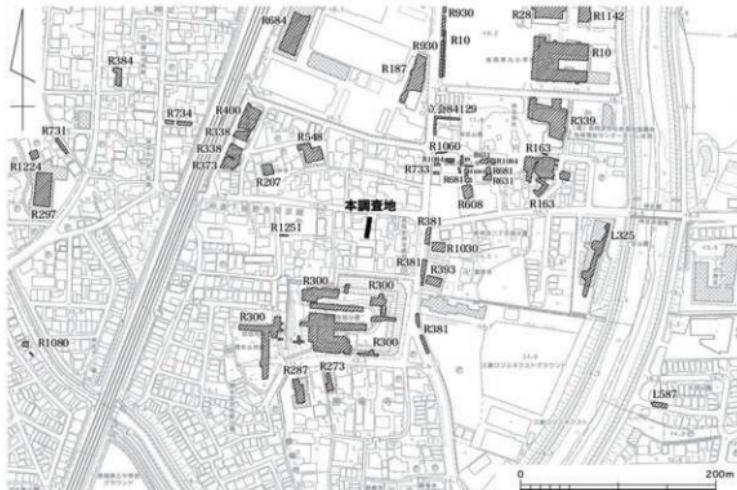
## 付 表 目 次

付表-1 本書報告調査地一覧表 .....	ii
付表-2 長岡市内遺跡詳細分布調査一覧表-1(令和2年12月～令和3年3月) .....	32
付表-3 長岡市内遺跡詳細分布調査一覧表-2(令和3年4月～11月) .....	37
付表-4 報告書抄録 .....	49

# 第1章 長岡京跡右京第1244次(7ANMNC-1地区)調査概要 —長岡京跡右京七条一坊七町、中世勝龍寺城跡・神足遺跡—

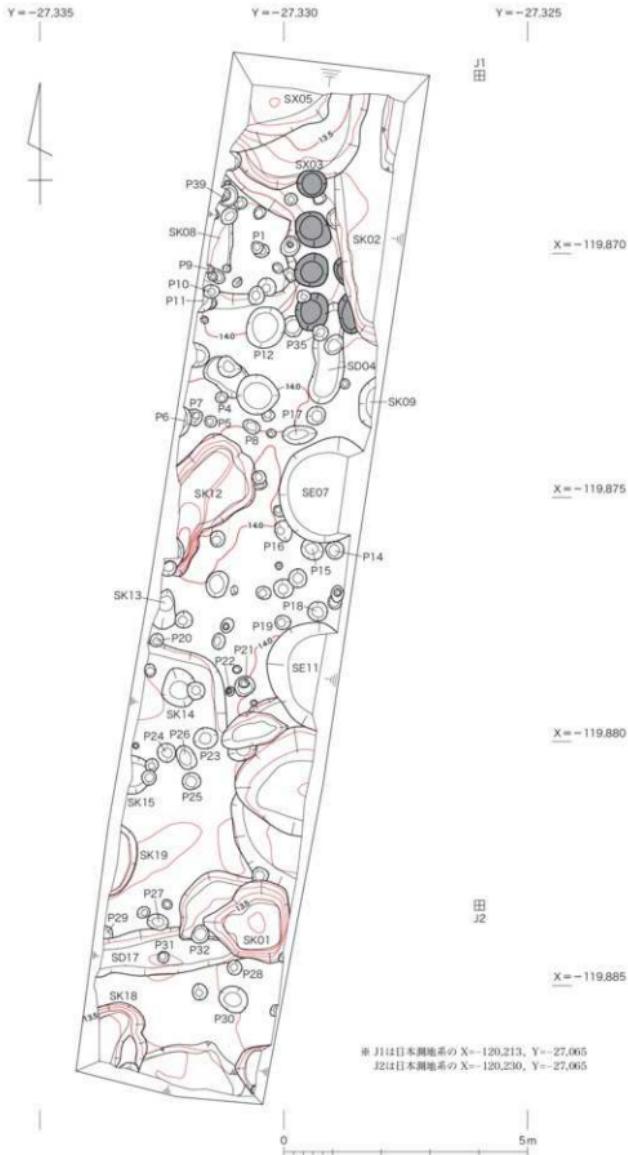
## 1 はじめに

- 1 本調査は、令和3（2021）年5月24日～6月11日まで、長岡京市東神足二丁目223他において実施した、長岡京跡右京第1244次調査に関する調査概要である。
- 2 調査は、勝龍寺城跡の北に隣接する家臣屋敷に想定される要所であり、中世から近世にかけて城から神足村への移り変わりを明らかにすることができる重要なところである。今回、当地の開発計画を受けて遺跡の解明を目的に範囲確認調査を実施した。
- 3 調査地は、長岡京跡右京七条一坊七町および七条間小路が想定されるほか、神足遺跡と勝龍寺城跡に含まれる市内でも遺跡が密に分布するところである。
- 4 発掘調査は、令和3年度国庫補助事業として長岡京市教育委員会から委託を受けた公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センターが実施した。現地調査は、公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター原秀樹が行った。
- 5 発掘調査にあたっては、土地所有者をはじめ、関係者各位や関係機関に種々のご理解とご協力を賜った。
- 6 本書の執筆は、原が行った。

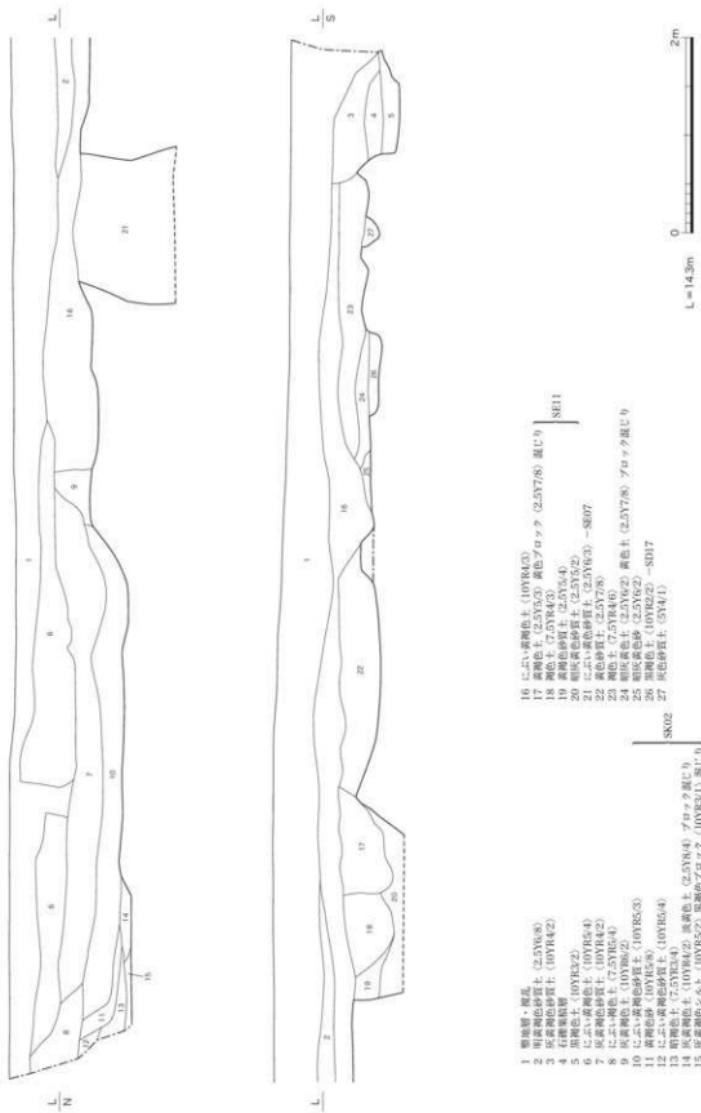


第2図 発掘調査位置図(1/5000)

## 2 調査経過

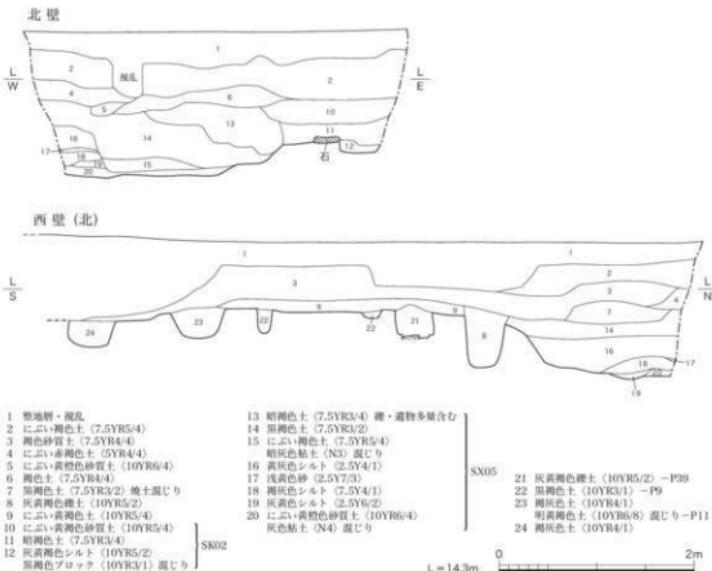


第3図 調査区検出遺構図 (1/100)



第4図 調査区東壁上層図 (1/50)

#### 4 調査経過



第5図 調査区北壁・西壁(北) 土層図(1/50)

## 2 調査経過

本地点は、旧石器時代～近世の遺跡が分布する神足遺跡と長岡京跡、さらには室町時代～桃山期の城館である勝龍寺城跡の範囲が重なる市内でも有数の複合遺跡として知られており、特に本調査地のある小畠川左岸の段丘上では、各時代の遺跡が永々と営まれた歴史が明らかにされている。

JR 東海道線で東西に分かれる駅前は市街地の形成に違いがあり、遺跡の発掘調査も若干異なる。JR 長岡京駅西側は、駅前商店街が形成されて賑わいをみせていたが、平成 12 年から始まった駅前西口再開発事業と道路拡幅、集合住宅等の建設に伴う発掘調査が大規模に実施された。一方、駅東口では企業施設や道路拡幅、公共施設と、勝龍寺城跡関連の公園整備に伴う発掘調査が実施してきた。継続して集中する調査事例の積み重ねは多くの成果をもたらしたが、また新たな課題について検討が待たれるところである。

本調査地は、北から南に傾斜する低位段丘 I から一段低くなる段丘 II に位置している。付近の標高は 14.9m である。

本調査地は、勝龍寺城跡公園の本丸北側に位置している。調査地の北側を東西に延びる道路は、段丘上を南北に通る古代の直線道路を継承する西国街道が、南端で東に折れて淀方面に続く道に

面する。江戸時代初期の洛外図屏風には、神足村の農村風景とともに勝龍寺城跡が石垣の残る古城として描かれている。なお、細川家所蔵の「山城国西岡御領知図」には、本丸の周囲に重臣の屋敷を配しており、当地は松井家の屋敷地とされている。

周辺の発掘調査は、公園整備に伴う勝龍寺城跡と空堀・土塁の調査、公共施設の建設、道路拡幅などの公的な調査は行われているが、一般の開発に伴う発掘調査は少ないので現状である。本調査地は、これまでの調査成果から弥生時代中期の集落に付随する墓域、ならびに長岡京の七条条間小路が想定されるほか、勝龍寺城の本丸北隣の要所に位置することも重要である。江戸時代は、京都近郊の一農村に変わると、古代から近世まで重層的な歴史が残された当地の発掘調査は貴重な機会である。

### 3 検出遺構

調査は、既存建物による搅乱を避けて、南北方向に長さ21m、幅4mの調査区を設定した。壁面の堆積土は表土直下に井戸や整地土が確認され、江戸時代を通じて洛外図のような道路に面した居住空間として現在に至ったと想像される。

遺構は、周辺調査地と同じく黄褐色の段丘層から確認されるが、弥生時代から中世まではほぼ同一面で検出される。おそらく後世の削平と整地を繰り返した影響と考えられる。なお、調査地北部については江戸時代後期の遺物を含む整地層があり、高まりとして残存していた。以下、主な遺構について述べる。

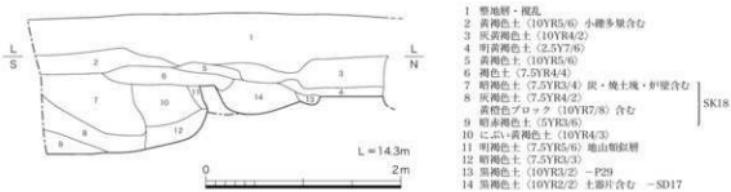
**整地土の高まり** 現代の整地層を掘り下げると、にぶい黄褐色系の土があらわれる。通常は地山面として認識される黄色系の段丘層まで掘り下げが、夾雜物の少ない客土であったことから人力で掘り下げを行った。東壁では第6層、西壁では第3層に相当する。層厚は約0.3mで、段丘の検出面はあらわれるが、調査地内では周囲より一段高く残る。この点は、当所の土地利用の違いによるものかもしれない。遺物は、江戸時代の土師器皿、陶器の擂鉢・甕・鉢・碗・鍋・花瓶、染付の碗、土人形、棧瓦などがある。土師器は小皿の完品が目立つ。投棄された遺物は概ね、18世紀後半～19世紀代に比定される。

**土坑 SK01** 長辺2.2m、短辺1.5mの不整形な掘形。西側に段が付く。深さ約0.4m。土師器の皿・鍋・焰烙、陶器の甕・擂鉢・鉢・碗・花瓶、染付碗、石製硯などが出土した。概ね、19世紀代に比定される。

**土坑 SK02** 上位の整地土直下から地山まで掘り込まれており、段丘面の高まりの東側が削平される。遺物は、整地土と重なるものが多い。

**井戸 SE07** 一辺約2mの円形素掘り。砂質土で埋め戻されている。底は危険なため未確認。江戸時代の土師器の皿・焰烙、陶器の壺・碗・灯明受け皿・火鉢、染付の皿・碗・広東碗などが出土した。概ね、19世紀代に比定される。

**井戸 SE11** 一辺約2.2mの円形とみられる。砂質土で埋め戻されている。底は危険なため未確認。江戸時代の土師器の皿・焰烙、陶器の碗、近現代の遺物が出土した。



第6図 調査区西壁(南) 土層図(1/50)

**落ち込み SX05** 西壁の断面形では、地山面を壠状に掘り下げるが、北壁では平らな底から階段状に上がる。埋土は、泥土と砂が堆積し、湧水がみられた。遺物は、中世の土師器、瓦器、焼き締め陶器、施釉陶器などが出土した。

**甕収え付け穴 SX03** 南北方向に揃う円形掘形が4個1列と2個残存する1列がある（第3回網掛け部分）。さらに東と北へ続くとみられるが、東側は土坑SK02に切られており、北側も土坑SX05に切られる。各掘形は、直径0.6～0.7m、深さ最大0.2m残存。遺物は出土していないが、円形掘形が整然と並ぶ状況から大甕を据えた貯蔵施設が想定される。上屋の柱穴等は見当たらないが、円形掘形の西側は一段高い平坦面となっており、作業空間であった可能性が考えられる。付近から出土する遺物は中世に属するものが多いことから同時期と考えている。

**土坑 SK18** 深さ最大0.9mの掘形。炭、焼土塊、炉壁が大量に投棄される。周辺調査でも同様の遺物は出土しているが、これまでのところ神足遺跡では最大量の出土である。炉壁の総重量は17.9kgである。時期については、決め手となる遺物が無いことから、現状ではまわりの調査状況等から推測せざるをえない。今後は、具体的な鋳造施設を確認することが待たれる。

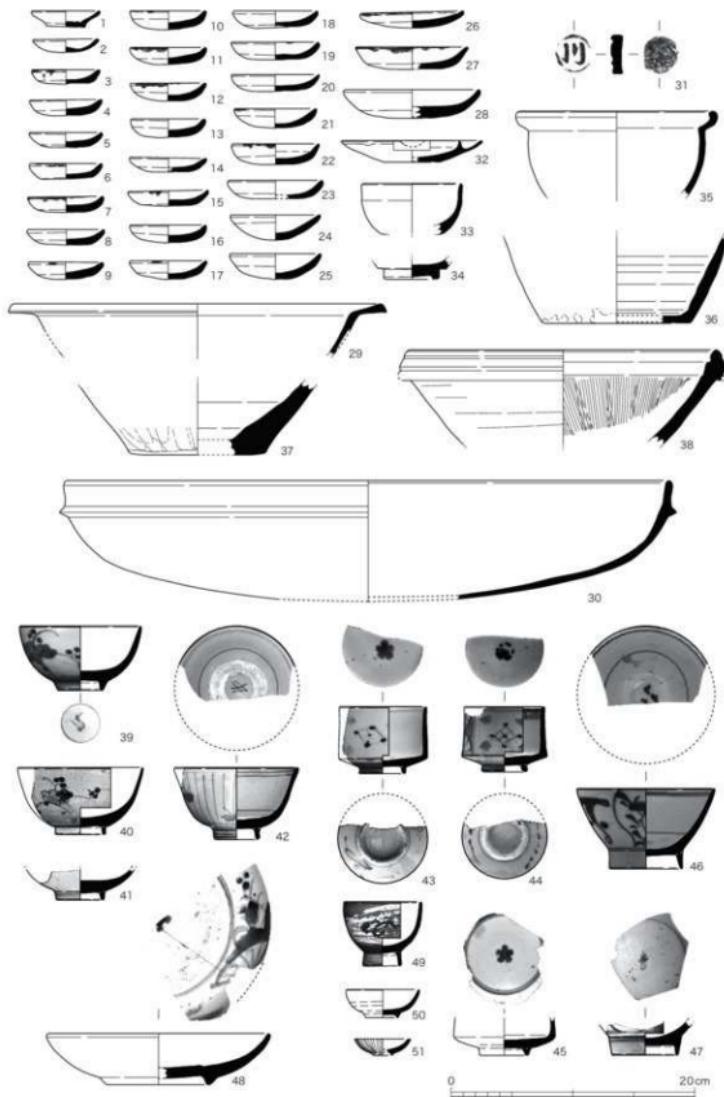
**溝 SD17** 幅0.9m、深さは最大0.3m。東西溝の方位がやや北に振れるようであるが、搅乱のすき間に残存する。本調査地では、唯一長岡京期の土師器と須恵器が出土した。本溝は、七条条間小路北側溝に比定される。国土座標値は、Y=-27,332で、X=-119,884.4である。

**土坑 SK12** 長さ2m以上、幅1.5m、深さ0.5m。長方形掘形を検出す。ほかに関連する遺構と遺物は確認できなかった。周辺は、神足集落の南東部に営まれた墓域に想定されている。弥生時代中期の土器がまとまって出土した。

**小穴** 直径0.4mの掘形が大半であり、隅円方形の柱穴は見当たらない。遺物は小片少量であるが、中世の土師器と瓦器片を含むものが多いことから同時期と考えられる。P39は、掘形の底に平らな石を据えている。小穴の数は多いが、柱筋が崩う小穴の確認は難しい。

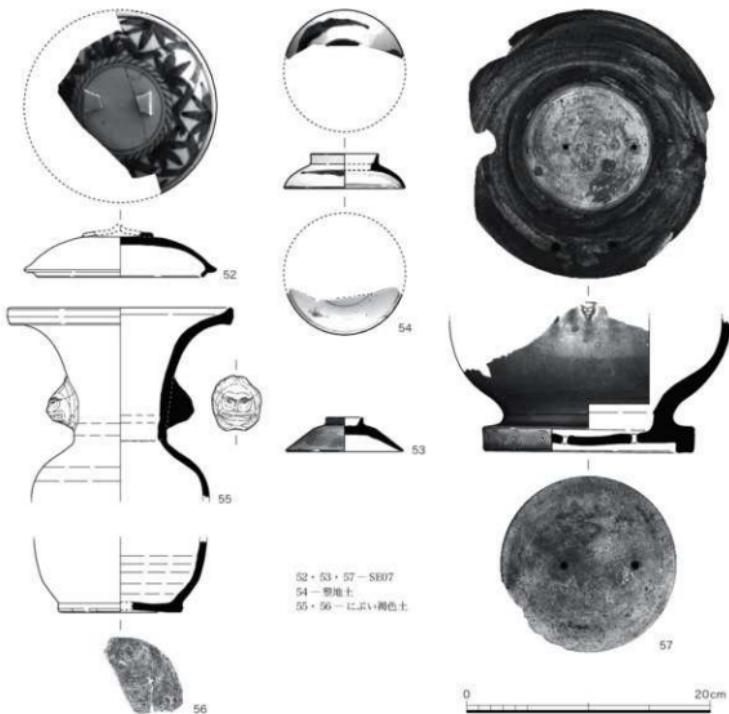
#### 4 出土遺物

今回の調査で出土した遺物は、整理箱に9箱分である。遺物は、江戸時代の土師器と陶磁器、中世の土師器・瓦器・陶器、石製品・炉壁、長岡京期の土師器・須恵器・瓦、弥生土器、炉壁などがある。なお、土器類は小片が多く図化できたものは限られる。



1~21・23・24・28・32・33・34・36・37・43・47・48・50・51 1層  
27-SK09 31-SK14 35・40にぶい褐色土 38・45-SK01 42・44・46-SK07 29 黒褐色砂質土  
22・25・26・30・39・41・49-SE11

第7図 出土遺物実測図-江戸 (1/4)



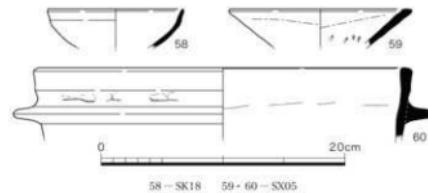
第8図 出土遺物実測図-江戸 (1/4)

## 江戸時代の遺物 (第7・8図)

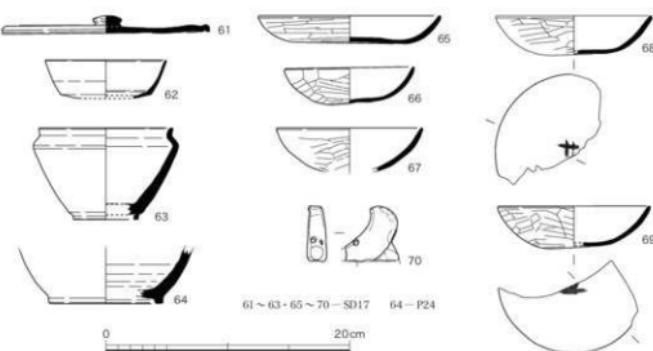
**土師器** Ⅲ (1～28)は、口径 6 cm 台が最も多い。1 は、初見の皿。口径 5.7 cm、器高 1.3 cm。色調は、橙 <2.5YR6/8>。正円形で、見込みに細い溝状の圓線がめぐる。口縁部内面は、時計回りにナデ調整をしており、中心から口縁部に向かって撫で上げている。外面は、横方向のナデ調整。見込みの圓線は、溝の線が角張って残ることからナデ調整後に型押ししたとみられる。底部は、糸切り後にナデ調整をしており、糸が擦れた跡が残る。同様の破片は 3 点ある。2～28 は、手づくねの皿。色調は、浅黄橙 <7.5YR8/4> を主体とする。2 は、口径 5.4 cm、器高 1.1 cm。内面を口縁に沿って指オサエしており、真ん中が高く残る。口縁部は水平でなく凸凹する。3～23 は、最も多く出土した皿である。口径は、5.4～11.2 cm まであり、このうち 6～7 cm 台が最も多い。器高は 1.2～2.3 cm。形態は、平らな底部に、口縁部が短く立ち上がる。器壁は厚めで、見た目以上に重量感がある。底部は、乾燥時の下敷きの圧痕が残ったままである。24～27 は、中世に多い一般的な皿である。口径は、6.2～7.4 cm。24・26 は、内面にハケメ調整を残す。

26・27は、体部が尖り気味である。25は、内面のナデ調整は一方に向かって施す。外面はオサエ未調整。28は、口径8.5cm、器高1.4cm。扁平な皿で、口縁端部は内面のナデ調整でわずかに立ち上がる。外面は、口縁部を横ナデ、底部はオサエ未調整。わずかに乾燥時の下敷きの圧痕が残る。土師器皿で口縁部に油煙が付着するのは5~7・9~12、15・17、25~27である。鍋(29)は、口径30.1cm。外面に煤が付着する。焰烙(30)は、口径50cm、器高9.7cm。小さな鉗が付く。内面は、丁寧にナデ調整する。外面は、雲母等の光沢のある鉱物を含む。器壁は均質な厚みをもつ。31は、泥面子。「川」の字を型押しする。

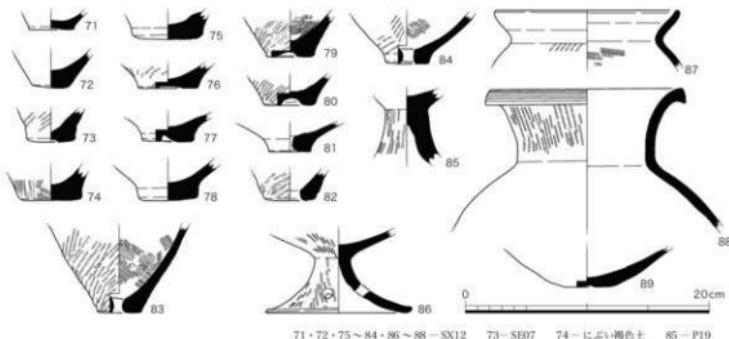
**陶磁器** 陶器は、碗(33)、天目茶碗(34)、鍋(35)、壺(36・37)、擂鉢(38)、小杯(49)、花入(55・56)、火鉢(57)がある。33は、灰白色を呈する精良な胎土である。内外面をロクロ調整する。34は、内面に鉄釉を施す。35は、口縁部に2箇所の把手があり、内側の段に蓋がある。内外面は鉄釉。36は、底部外面は無釉。内外面は鉄釉を施釉する。37は、焼き締め陶器。内面に降灰した自然釉が付着する。38は、口径25.6cm。体部外面をヘラケズリ調整する。ロクロの回転方向は左回り。焼成は堅緻。縁帶部の下端を意図的に打ち欠く。49は、貼り付けた高台の内外面をヘラケズリ調整する。表面に白と黒の釉薬を刷毛塗りする。55・56は、同形態の破片。頸部に二つの獸面を貼り付ける。底部を除いて全面に鉄釉を施す。底部に糸切り痕を残す。57は、外面は綠釉、内面は体部に鉄釉を刷毛塗りする。底部外面に渦巻き文を押印しており、焼成後に底部に3箇所穿孔する。底径17.2cm。底部外面に墨書き文字が記されているが、墨が薄く文字も重なることから判読は難しい。上部を欠損するが、体部に2箇所の把手が付く。



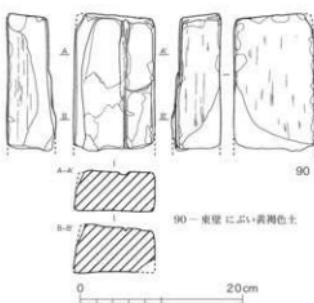
第9図 出土遺物実測図-中世 (1/4)



第10図 出土遺物実測図-長岡京期 (1/4)



第11図 出土遺物実測図-弥生 (1/4)

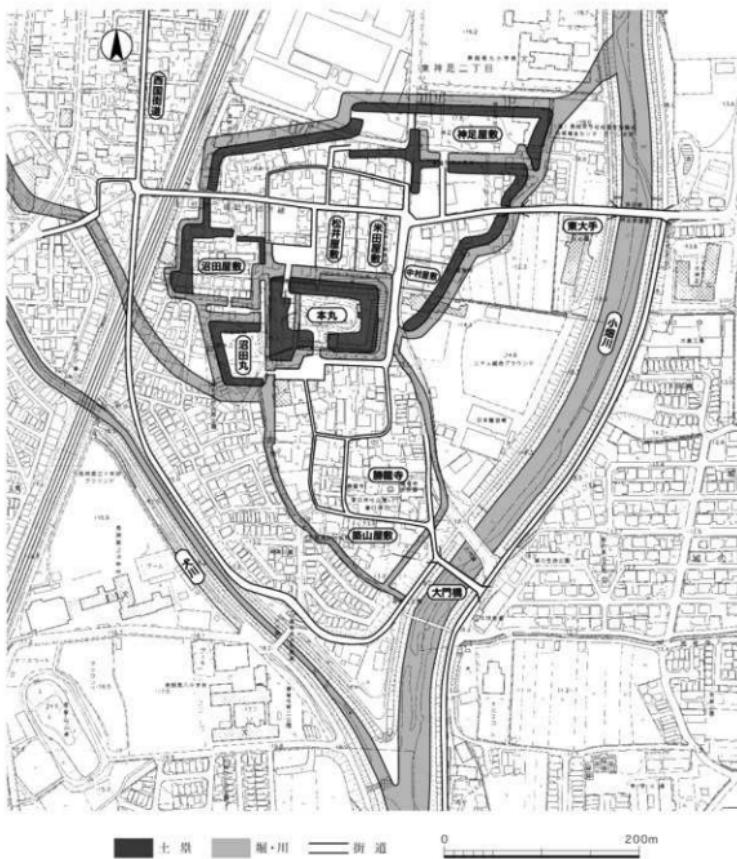


第12図 出土砥石実測図 (1/6)

瀬戸産の緑釉瓶掛。  
磁器は、灯明受け皿(32)、碗(39～47)、皿(48・50・51)、蓋物(52～54)がある。32は、内面に透明釉を施す。外面はロクロ調整する。39・40は、梅樹文を描く染付の丸形碗。口径10.0～10.4cm。コンニャク印判と手書きを併用する。39の高台内は文字が崩れているが「大明年製」か。40は、呉須の発色が濁っている。41は、見込みを蛇の目釉剥ぎによる重ね焼きを行う。染付。42は、虫籠文を描く染付の端反碗。口径10.2cm。見込みは、中央に「#」を描き、蛇の目釉剥ぎを行う。呉須の発色が濁っている。43・44は、菊花文と斜格子文を描く染付の筒型碗。口径6.6～7.1cm。45は、染付青磁の筒型碗。43・45は、見込みにコンニャク印判の五弁花文を施す。46・47は、染付の広東碗。46は、仙芝文。口径11.3cm。47は、見込みに崩れた寿字文を描く。48は、出土した中で口径が大きい染付皿である。口径18.4cm。見込みにコンニャク印判の五弁花文を施し、蛇の目釉剥ぎを行う。50は、全面に透明釉を施す。口径6cm。51は、貝の文様を型どった白磁の紅皿。口径4.6cm。52は、平たい紐状のつまみがつく段重の蓋で、食膳具や化粧道具に使われたと言われている。染付。口径13.8cm。53は、外面にコンニャク印判で文様を施す。呉須の発色が濁っている。口径9.6cm。54は、染付の蓋。口径10.0cm。

### 中世の遺物 (第9図)

瓦器 梱(58)、羽釜(60)と、図版6(1)のミニチュア羽釜(91)、羽釜(92)、湯釜(93)がある。58は、口径11.2cm。内面は摩滅する。60は、口径31cm。91は、脚を欠損する。93は、鉄製湯釜を模している。



第13図 勝龍寺城縄張図(1/5000)

**陶磁器** 卸皿(59)と、図版6(1)の摺鉢(94)、碗(95)と、青磁碗(96)がある。59は、口縁端部の内外面に灰釉を施す。下ろすための断面V字形の切り込みをつける。94は、摺鉢の片口部分。備前焼。95は、内外面に灰釉を施す碗。59と95は、瀬戸・美濃焼。96は、高台に合わせて円く打ち欠いている。高台内は露胎。

#### 石製品と炉壁 (第12図・巻頭図版1・図版8・9)

石製品には、砾石(90)と、硯(103)がある。90は、長辺16.9cm 残・短辺10.0cm・厚さ6.1cmの長方形。重量は1740g。小口を除いて使用痕跡をとどめる。石材は、砂石である。103は、長辺8.3cm 残存。石材を削り出している。石材は、流紋岩である。

炉壁は、神足遺跡の調査でこれまでに最大量が出土した。被熱で赤変した土塊には植物痕を残すものがあり、その反対面は金属滓からでた気泡と流れ出た痕が残る。それぞれの炉壁は粉々であり、元の形状を推測することは難しい。

#### 長岡京期の遺物（第10図）

**須恵器** 杯B蓋（61）、杯A（62）、壺E（63）、壺（64）がある。61は、口径17.0cm、器高1.5cm。62は、口径10.0cm。63は、口径11.0cm。64は、底径9.4cm。

**土師器** 皿A（65）、椀A（66～69）がある。65は、口径15.1cm、器高2.3cm。66は、口径10.7cm、器高3.2cm。67は、口径12.0cm。68は、口径12.8cm、器高3.3cm。底部外面に「什」の墨書がある。69は、口径12.6cm、器高3.5cm。底部外面の墨書は欠損があり判読は難しい。土師器の調整手法はc手法である。

#### 弥生時代の遺物（第11図）

**弥生土器** 整理箱に3箱分相当の量がある。接合復元できたものは少ない。平底の底部は、壺・甕（71～80）と、瓶（81～84）がある。外面は、ハケメ調整とタタキを施す。瓶の底部穿孔は、焼成前に行われている。高杯（85・86）は、脚柱部をヘラミガキ調整する。図版7の（100）は、高杯の脚端部。甕は、「く」字状に外反する甕（87）と図版7の（97～99）がある。87は、口径15.2cm。外面はタタキを施す。97は、外面をヘラミガキ調整する。98は、外面にタタキを施す。壺は、広口壺（88・89）がある。胎土と色調は、灰白色を呈しており搬入品とみられる。88は、口径15.7cm。頸部をヘラミガキ調整する。89は、平底の底部。これらの弥生土器は、畿内第V様式に比定される。

## 5 まとめ

今回の調査では、弥生時代、長岡京期、中世～近世の遺跡を確認することができた。中でも、多量の炉壁は鉄造関連の工房から廃棄されたものとして注目される。時期については、室町時代全般にわたる遺物が出土しており、中世末を下限とすることも可能であるが、少量の遺物は廃棄時の混入の可能性もあり、今回は操業時期の特定については留保したい。また、発掘場所についても中世段階と想定しているが、今後の調査において比較検討できる資料を待たい。本地点では、中世の遺物は少なく、城や土塁・空堀跡から出土する遺物は少ない。江戸時代の前半代も断片的であり、ほぼ18世紀後半～19世紀代の遺構と遺物に占められる。神足地区で実施された多くの発掘成果は、江戸時代の街道筋に開けた神足町と村の暮らしを考える一助になる。

注1) 岩崎 誠・木村泰彦『右京第630・654次調査』『長岡京市センター報告書』第26集 2002年

2) 山本輝雄『長岡京跡右京第776次発掘調査報告』『長岡京市センター報告書』第36集 2003年

3) 小田樹 淳『長岡京跡右京第365次調査』『長岡京市センター資料選』(二) 2013年

4) 原 秀樹『長岡京跡右京第950次発掘調査報告』『長岡京市センター報告書』第50集 2009年

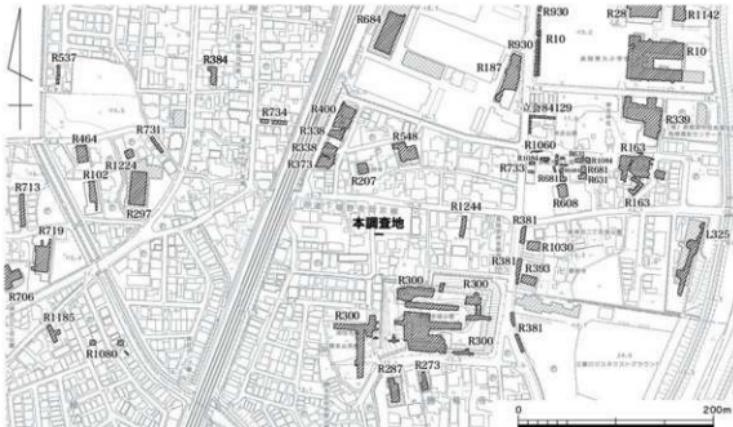
5) 岩崎 誠『勝龍寺城発掘調査報告』『長岡京市センター報告書』第6集 1991年

6) 石材については、高田クリスタルミュージアム 高田雅介氏のご教示を得た。

## 第2章 長岡京跡右京第1251次(7ANMNC-2地区)調査概要 —長岡京跡右京七条一坊十一町、中世勝龍寺城跡・神足遺跡—

1 はじめに

- 1 本調査は、令和3(2021)年9月29日から9月30日まで、長岡市東神足二丁目215-6・7において実施した、長岡京跡右京第1251次調査に関する調査概報である。
  - 2 調査は、長岡京跡及び中世勝龍寺城跡の構造解明において極めて重要な土地において、開発行為が計画されたことを受けて実施した緊急発掘調査である。
  - 3 調査区は、対象地の南端に東西8.7m、南北1mを設定し、約9m<sup>2</sup>の面積を調査した。今回の開発行為は、遺構面に達しない基礎構造であることから、調査区域内において調査可能な範囲・期間での確認調査となった。
  - 4 調査地は、長岡京跡右京七条一坊十一町にあたり、すぐ北は七条条間小路に推定されている。また、中世勝龍寺城の縄張りでは、帶曲輪と呼ばれる南北にのびる細長い曲輪の推定地に位置する他、弥生時代の集落遺跡として名高い、神足遺跡にも重複している。
  - 5 発掘調査は令和3年度国庫補助事業として長岡市教育委員会から委託を受けた公益財団法人長岡市埋蔵文化財センターが実施した。現地調査は、長岡市教育委員会の指導・監督の下、公益財団法人長岡市埋蔵文化財センター中島脩夫が行った。
  - 6 発掘調査にあたっては、関係者各位をはじめ、地権者の方々や関係機関に種々のご理解とご協力を賜った。
  - 7 本報告の執筆と編集は長岡市教育委員会福家恭が行った。



第14図 発掘調査地位置図(1/5000)

## 2 調査経過

本調査は、中世勝龍寺城本丸の北堀に接する屋敷地及び南北にのびる帯曲輪の構造解明を目的として実施した。また、長岡京期には右京七条一坊十一町の北端に位置し、七条条間小路も推定されている。さらにこの付近は弥生時代中期に盛行する神足遺跡にあたる。

当地は、小畠川と犬川に挟まれた低位段丘Ⅱにあたり、北から南へ緩やかに傾斜する。現況は平坦な敷地となっており、勝龍寺城築城に伴う造成の痕跡や旧地形を窺うことはできない。

周辺では、北へ 60～80 m の位置で長岡京跡右京第 207 次・第 338 次・第 373 次調査が実施されており、長岡京期の掘立柱建物や弥生時代の方形周溝墓群、中世勝龍寺城に関係する堀、近世の火葬墓群などが確認されている。また、南へ 60m には勝龍寺城があり、右京第 300 次調査で本丸及び沼田丸の構造が明らかとなっている<sup>(1)</sup>。特に沼田丸の北端の調査では本丸を囲む土塁・堀とは別に南北にのびる堀が検出されており、今回の調査地はこの延長上に位置する。

そのため、地権者には勝龍寺城の構造を解明における重要地点であることをご理解いただき、遺跡を保護する措置にもご協力いただき、調査を実施することになった。なお、現地調査は令和 3 年 9 月 29 日に重機掘削・調査を開始し、9 月 30 日には測量・埋め戻しを完了した。

## 3 検出遺構

**基本層序（第 15 図）** 調査地の基本層序は、駐車場に伴う造成土を除去すると、近世遺物を含む黒褐色シルト層（1 層）が堆積しており、遺構の残存状況は比較的良好であった。遺構検出は、褐色粘質シルト～砂礫層（11 層）の地山上面で実施し、主な遺構はこの地山面、または黒色～黒褐色粘質シルト層（8 層）及び SX03～05 の上面から掘削されている状況を確認した。

**検出遺構（第 15 図）** 今回の調査で検出された主な遺構は、中世遺物を含む溝 2 条、小穴 2 基である。

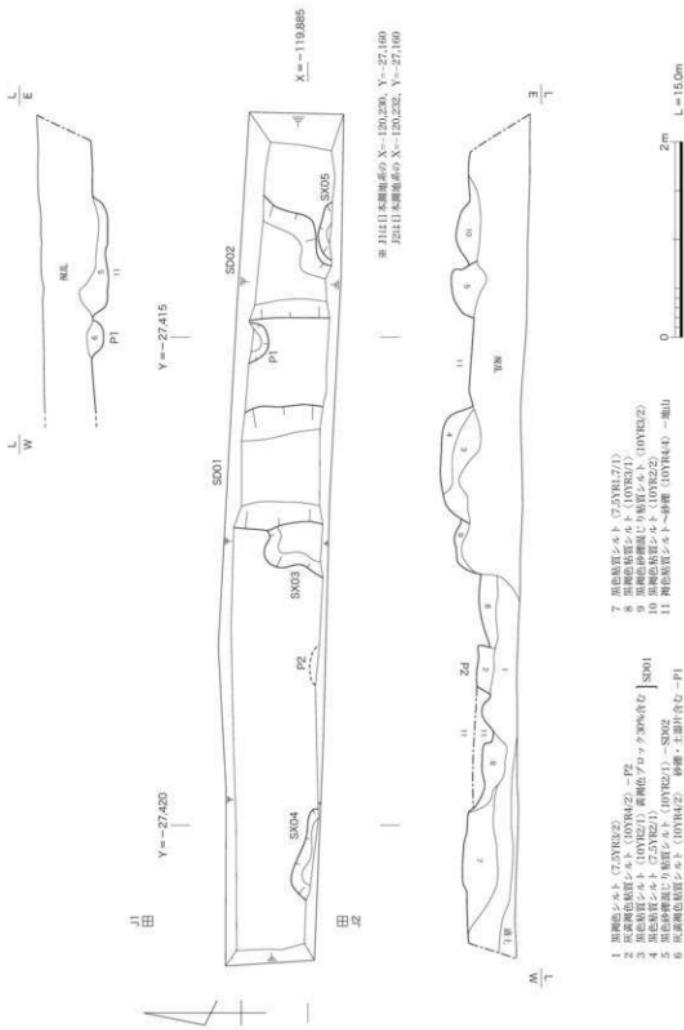
**溝 SD01・02** 調査区の東半に位置する 2 条の溝は、約 0.9 m の間をあけて平行する南北方位の溝である。西側に位置する SD01 は、幅約 1.2 m、深さ約 0.4 m の規模で、黒褐色粘質シルトが堆積する。東側の SD02 は、南端幅約 0.56 m、北端幅約 1.23 m となり、変則的な形状を呈す。埋土は SD01 と同様であるが、地山由来の砂礫が混じる程度の差がある。

**小穴 P1・2** いずれも径 0.4～0.45 m 程度の規模を測る。P1 は SD01 と SD02 の間に位置する小穴で、16 世紀頃の土師器片を含む灰黄褐色粘質シルトが堆積する。P2 も同様の埋土であり、8 層上面から掘削されている。

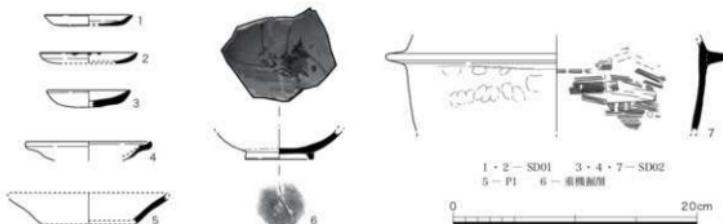
## 4 出土遺物

本調査では中世から長岡京期を主体とした土師器、須恵器、瓦器、陶磁器などの遺物が整理箱 1 箱分出土した。その内、実測可能であった 7 点について紹介する。

1～5 は土師器皿である。1 は口径 7.2 cm、器高 0.9 cm、2 は口径 8.0 cm、器高 0.9 cm で、



第15図 調査区検出遺構図・土層図(1/50)



第16図 出土遺物実測図（1/4）

口縁部を短く立ち上げ、端部は丸くおさめる。内外面をヨコナデにより調整する。3は手捏ね成形による厚い器壁をもつ。口径6.9cm、器高1.4cmを測る。4は口縁部が「て」の字形を呈す口径10.4cmのものである。5は口縁端部を欠損するが、外反する口縁部は口径13.3cmに推定される。6の陶器は京焼の椀で底部には「清水」と刻印され、見込みには塔などの建物の描写が見られる。7の土師器羽釜は胴部径24.4cmを測り、羽部はほぼ水平に取り付く。外面はナデ、内面はハケで調整を施す。1・2・7はSD01・02から出土した16世紀頃のもので、18世紀前半に位置づけられる3・6は、最終埋没時期のものであろう。4は12世紀前後に位置づけられ、実測していない瓦器片も同様の時期のものである。

## 5 まとめ

今回の調査により、中世勝龍寺城の繩張り構造を知る上で重要な成果が得られた。

本調査は、当初、R300次調査で確認されていた帶曲輪を構成する堀を確認する目的であったが、実態として帶曲輪が調査地付近にまでは延長していないことが明らかとなった。その一方で、平行する2条の溝が新たに確認された。また、P1とP2が同時期のものであれば、8層は16世紀以前の堆積と判断でき、元亀2(1571)年の細川藤孝による勝龍寺城改修に伴う造成土である可能性がある。堆積状況から溝の正確な時期を推定することは困難であったが、出土遺物から推定すると16世紀頃に位置づけることができる。そのため、調査地付近は中世勝龍寺城に伴う家臣団の宅地区画であったと推定でき、繩張り構造については再検討が必要と言える。<sup>(1)</sup>

今後も中世勝龍寺城の構造解明に向けて調査を継続的に実施していくことが、遺跡保護の一助になれば幸いである。

注1) 岩崎 誠『右京第207次調査概要』『長岡市文化財調査報告書』第17集 1986年

山本輝雄『右京第373次調査略報』『長岡市センター年報』平成3年 1991年

2) 岩崎 誠『勝龍寺城発掘調査報告』『長岡市センター報告書』第6集 1991年

3) 長岡市教育委員会『勝龍寺城関係資料集』(『長岡市歴史資料集成1』) 2020年

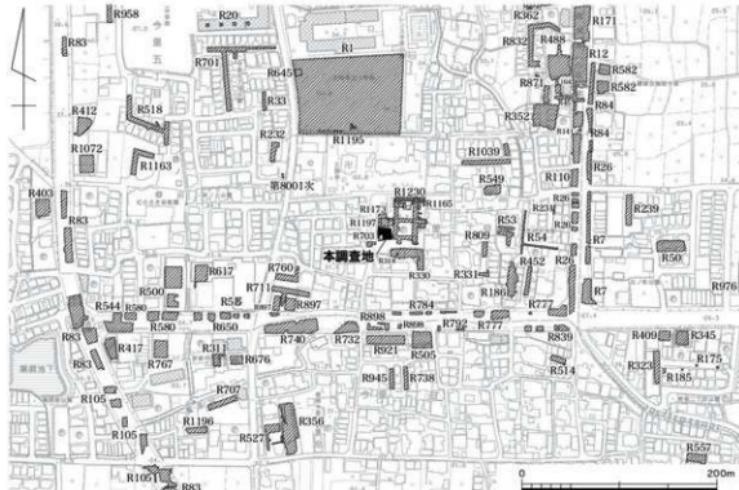
4) 本書「第13図」参照

## 第3章 乙訓寺第29次調査概要

### —長岡京跡右京第1252次(7ANIHR-14地区)調査—

#### 1 はじめに

- 1 本調査は、令和3（2021）年11月1日から12月23日まで、長岡京市今里三丁目地内において実施した、乙訓寺第29次調査（長岡京跡右京第1252次調査）に関する調査概要である。
- 2 調査は、古代乙訓寺の伽藍配置や関連施設、長岡京造営との関わりについての情報を得る目的で実施した範囲確認調査である。調査面積は約142m<sup>2</sup>であった。
- 3 調査地は、長岡京右京四条三坊八町および三条大路推定地や旧石器時代から江戸時代にかけての複合遺跡である今里遺跡にも重複しているため、これらに関わる遺構・遺物の確認も合わせて行った。
- 4 発掘調査は、令和3年度国庫補助事業として長岡京市教育委員会から委託を受けた公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センターが実施した。現地調査は、長岡京市教育委員会の指導・監督の下、公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター中島皆夫が行った。
- 5 発掘調査にあたっては、乙訓寺関係者各位をはじめ、周辺地権者の方々や関係機関に種々のご理解とご協力を賜った。
- 6 本報告の執筆と編集は長岡京市教育委員会福家恭が行った。



第17図 発掘調査位置図 (1/5000)

## 2 調査経過

調査地は、白鳳期の創建とされる乙訓寺の境内地あたり、現在は乙訓寺の駐車場として利用されている敷地である。現在は平坦な地形となっているが、これまでの調査によって、旧地形は西から東へと傾斜する低位段丘上に位置することが明らかとなっている。

現在の乙訓寺は、元禄期に再興されたものであり、創建時の主要施設の配置や規模などは明らかでない。古代の乙訓寺に関連する遺構は、昭和41年の発掘調査（乙訓寺第1次）で、講堂と推定される建物跡が発見されており、再確認のために実施した乙訓寺第26次調査により、長岡京期の掘立柱構造の建物であることが判明している。

一方、伽藍の南東に位置する今回の調査地付近では、昭和44（1969）年に実施された乙訓寺第2次調査をはじめ、平成29年度から実施している発掘調査によって、近世の建物や整地層、中世の区画溝や掘立柱建物、古墳時代後期の総柱建物と柵や土器埋納坑を含む土坑群、弥生時代の周溝墓と土壙墓などが見つかっている。

しかし、古代乙訓寺に関連する明確な遺構は未だに確認できておらず、長岡京期前後の正方位を指向する小規模な掘立柱建物と、正方位に対し東で南に1°の同一軸線上に方位を揃える隅円方形掘形をもつ柱穴と不正形土坑群、井戸などか唯一古代乙訓寺に関連する可能性がある。

そのため、今回の調査は、古代乙訓寺の中心伽藍の南限構造を明らかにするために、乙訓寺第27次調査区のさらに南側に設定した。調査区は、南北11m、東西13mの規模で開始し、遺構を追求するために各所を拡張したこと、最終的な調査面積は約142m<sup>2</sup>となった。調査は令和3年11月1日から着手し、12月10日に関係者説明会、12月13日に記者発表を行った。また、遺跡を保護するために下層遺構は上面検出に留め、12月16日から遺構を保護しながら埋め戻しを開始した。全ての作業は12月23日終了した。

## 3 基本層序

本調査区では、北接する乙訓寺第27次調査区と同様に、おおよそ近世～古代の瓦と礫を多く含む整地面（包含層Ⅰ・黒色粘質シルト層）、中世遺物を含む包含層Ⅱ（暗オリーブ褐色シルト層）、上面が長岡京期の遺構面となる包含層Ⅲ（黄色ブロック土を含む黒色～黒褐色粘質シルト層）、地表面（黄褐色粘質シルト～砂礫層）の4層で構成される（第20図）。

今回の調査は、包含層Ⅱ上面で中・近世遺構の調査を行い、記録後に包含層Ⅱを除去し、包含層Ⅲ及び地表面において、長岡京期を中心とした遺構群を調査した。

なお、今回の調査で検出した遺構は、堆積状況を確認するための半裁等に留め、再検証可能な状態で保存することにした。また、包含層Ⅲは部分的な断ち割りを行い、下層遺構及び地表面を確認した。

#### 4 検出遺構

本調査では、弥生時代から近世に至る乙訓寺および今里遺跡の遺構を検出した。遺構は、弥生時代～近世のものがあり、複雑に重複している状況であった。また、遺物整理が途中のため、遺構の詳細時期については改めて報告したい。

##### 〔中・近世の遺構〕(第18図)

これまでの調査と同様に盛土下に近世の瓦や陶器と共に小礫が多く含む整地面（包含層I）があり、近世の遺構はこの整地上面から掘削されたものである。中世の遺構は、包含層IIの上面と下面で確認でき、遺構同士の切り合いなどから複数時期のものが重複している。

**溝 SD01・02・11・14・15** これらの溝は全て南北方位を指向し、概ね同程度の規模（幅0.3～0.5 m）を測る。これらには新旧があり、新しいものは包含層IIの上面から掘り込まれるSD01・02で、近世の小穴（P1・2）に切られる。一方、古いものは包含層IIの下面で検出され、SD02及び中世の小穴（P8）と切り合うSD11と瓦溜まりSX10に切られるSD14・15がある。特にSD11は最も残存状態が良く、幅約0.6 m、深さは北端で0.2 m、南端で0.46 mを測る。黒褐色シルトの埋土が堆積し、細片ではあるが瓦器や土師器皿など遺物も多い。

**瓦溜まり SX10** 調査区北東部において布目の丸瓦と平瓦を主体とする瓦溜まりを確認した。瓦溜まりは長さ約3.3 m、幅1.2 m、深さ0.2 mの落ち込みに折り重なるように投棄されているもので、軒瓦は少なく、完形のものもない。また、埋土は暗灰黄色シルトで、包含層IIと類似した土質であり、近世瓦は一片も含まれておらず、僅かに瓦器片が混じることから時期を比定している。

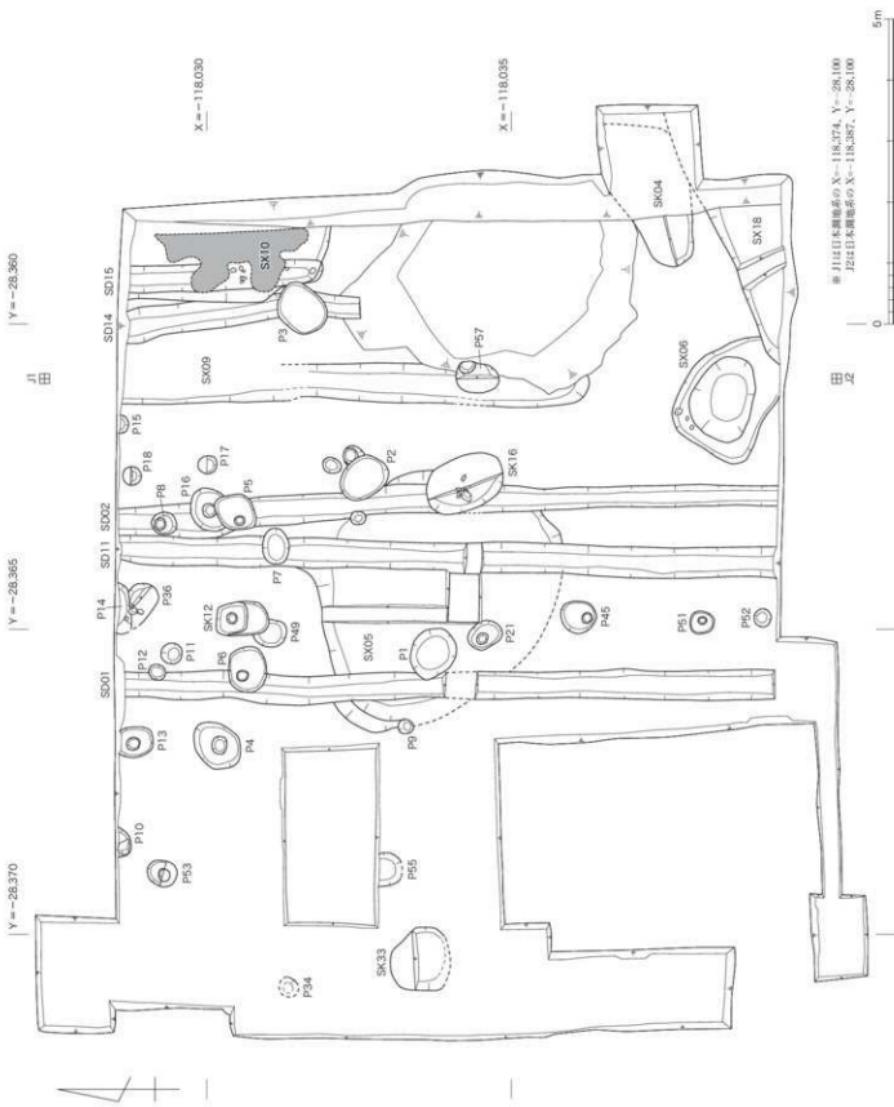
このような瓦溜まりは乙訓寺第27次調査区内でも南北方位の帶状に堆積する状況が確認されており、SX10を含めて南北14 m以上直線的に投棄されている点は、何らかの区画の存在を窺わせる。

**近世の小穴群** 包含層I上面からの掘り込みが確認できるもの（P10など）や埋土に炭や小礫を多く含むもの（P1～4など）がある。P10は径0.56 mの穴に、幅0.4 m程度の角張った石材を据える。石材は傾いているが、一面は平坦なもので礎石としての利用が考えられる。P1は径0.7 m、深さ0.2 mを測り、径4 cm前後の円礫が含まれている。また、包含層Iに炭が多く含まれるように、近世遺構は炭を多く含むものが多い。

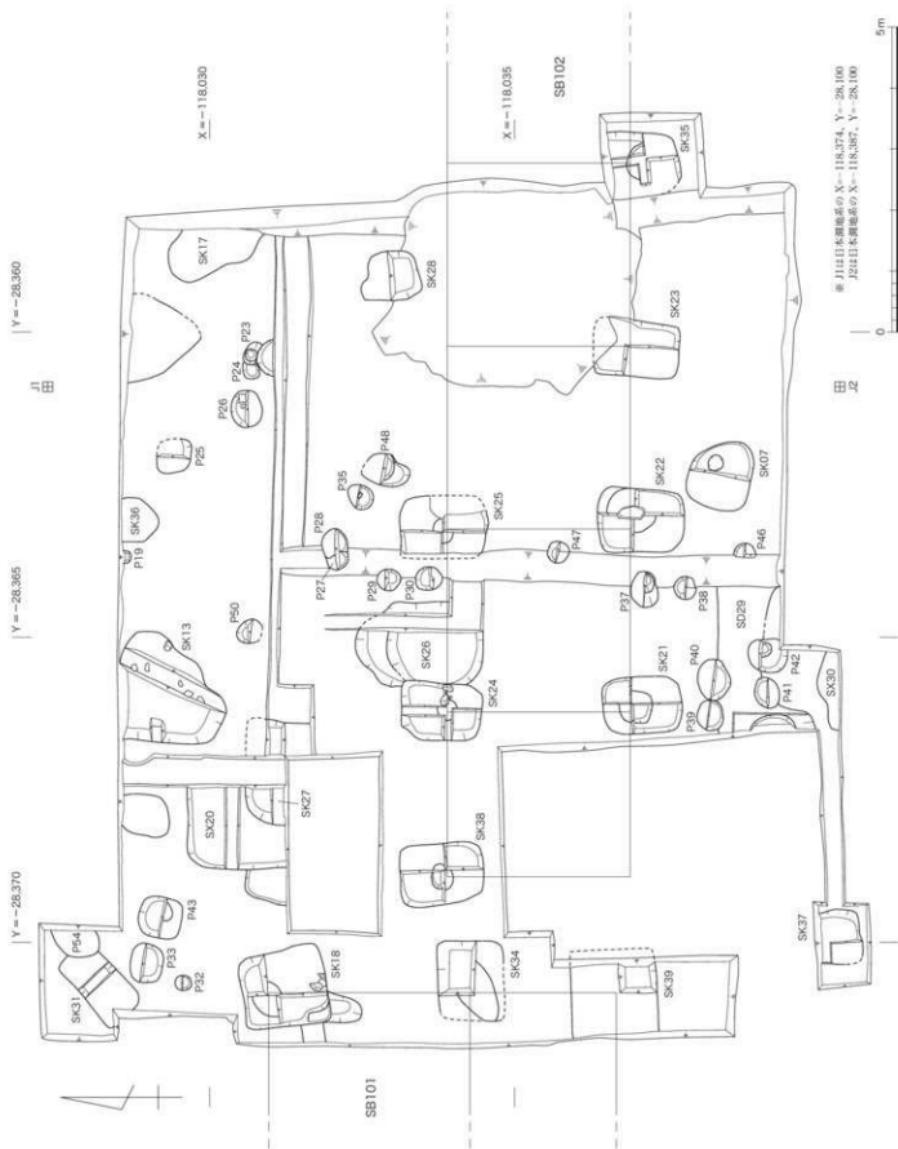
**中世の小穴群** 中世遺構と切り合うもの（P5・8・16など）と包含層IIの上面から掘り込みが確認できるもの（P34・49など）がある。多くの小穴が径約0.3～0.6 mの柱穴であり、径0.1～0.2 m程度の柱当たりをもつ。また、P49は径約0.8 mの柱掘形に径約0.24 mの柱痕跡が見られる大型の柱穴であり、径0.4 mの柱掘形をもつSK12の抜き取り坑には、完形の土師器皿と瓦器皿を立てて埋納しているなど多彩であり、建物として復元することは難しい。

##### 〔長岡京期前後の遺構〕(第19図)

遺構検出面である包含層IIIは、北西から南東へ傾斜する地山面や下層遺構を平坦にするよう



第18図 第1遺構面(中・近世)検出遺構図(1/80)



第19図 第2遺構面(長岡京期・古墳)検出遺構図(1/80)

堆積する。布目瓦を含んでいることから、白鳳期から平安時代までの間に行われた造成によるものと推定される。

**大型掘立柱建物 SB101** 調査区西端で確認された3基の大型柱穴（SK18・34・39）で構成される。北東角の柱穴に推定されるSK18は、南北1.4m、東西1.3mの隅円方形の掘形をもつ柱穴で、柱痕跡は径約0.4m、深さ約1mを測る。掘形埋土は地山由来の黄色砂質土ブロックを含む黒褐色粘質シルト、柱痕跡にはブロック土が混じらない黒色粘質シルトが堆積する。

SK18から南へ心々間距離3.3m(11尺)の地点にSK34が存在する。SK34は柱掘形が東西1.3m、南北1.1mの規模を測る。抜き取りの影響により深さ0.4m近くまで二次堆積があり、その下に径約0.4mの柱痕跡が見られる。また、北端は土坑SK33に切られ、その埋土下にSK34の掘形が検出できる。SK33には古墳時代後期後半の須恵器と土師器が据えられているが、SK34の埋土には瓦片が含まれており、切り合ひ関係からも後世に転用されたものと推定できる。

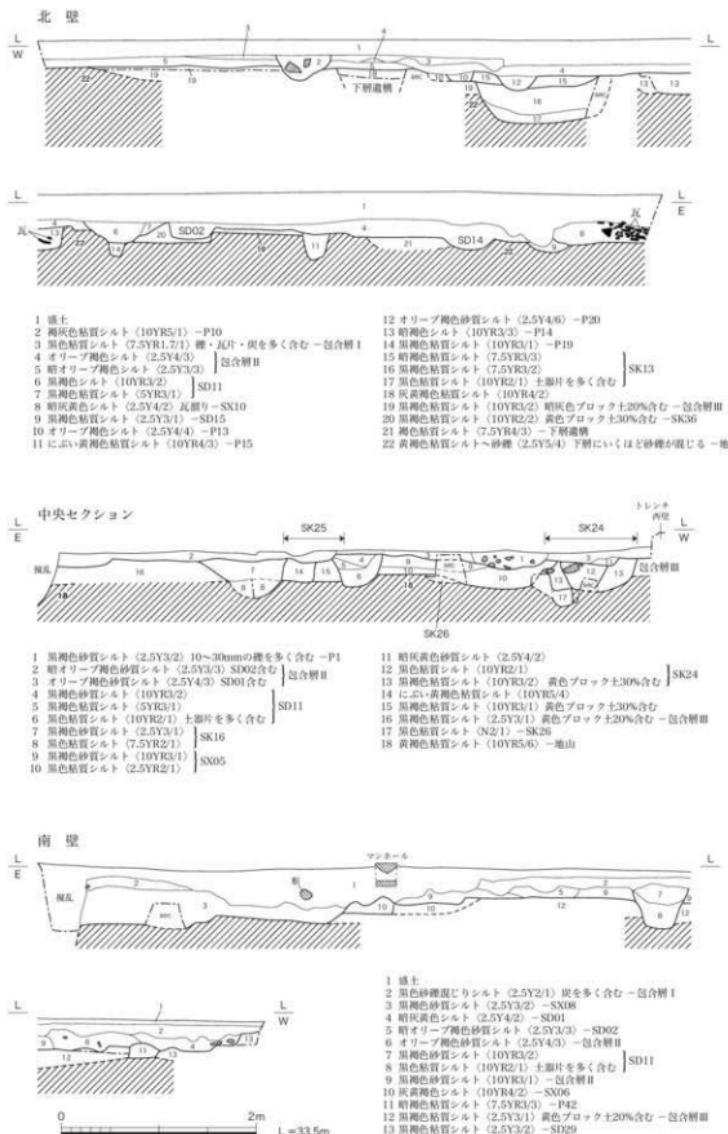
SK34からさらに南へ心々間距離2.4m(8尺)の地点でSK39が検出された。SK39は南肩部の直上が複雑な影響を受けていたため、地山まで掘り下げて検出した。また、周辺環境等の制約から、今回は東西の規模を確認できていない。そのため、現時点での規模は、東西1m以上、柱掘形が南北1.3mである。埋土は黄褐色土と黒褐色土が互層に深さ0.7mまで堆積していたが、柱痕跡は確認できなかった。

見つかった3基の柱穴は、同程度の規模、かつ類似した埋土であり、同一の建物に伴うものと推定される。これらがSB101の東辺の柱列と推定すれば、南北2間の建物が西側にひろがることになる。

**掘立柱建物 SB102** 大型掘立柱建物SB101から東へ1.7mの地点から東に並ぶ柱穴群である。柱穴は、南北1.3m、東西0.8mの隅円方形の掘形を呈し、計7基が確認された。南北1間、東西4間以上の構造物を呈し、6基の柱穴は3m等間で配置され、SK24とSK38の柱間のみ2.7mとなっている。南側の柱列は西からSK21・22・23・35、北側の柱列は西からSK38・24・25と並び、さらに東へ延びる可能性はあるが、北側と南側にひろがることはない。

SB102を構成する南側の柱列は、いずれも包含層III上面から掘削されている。SK21とSK35には径0.3m程度の柱痕跡が見られ、SK22には柱の修繕によるものと考えられる長辺0.5mの細長い石材が据えられている。また、掘形埋土は概ね黄色シルトの地山ブロック土を含む黒褐色粘質シルトが堆積しているが、SK35は砂砾ブロック土が含まれており、地山の土質により含有する胎土が異なる。

北側の柱列も包含層III上面から掘削されており、径0.3m程度の柱痕跡が見られる。掘形埋土も地山ブロック土を含む類似した胎土が堆積し、SK25は柱痕跡がにぶい黄褐色粘質シルトであった。また、SK24は東肩部分が中世遺構(SX05)に切られ、東肩から底面は下層遺構のSK26が重なる。SK25も西肩部分を中世の溝(SD11)、東肩部分を中世の土坑(SK16)で壊されており、底部の南端は弥生時代の遺構を掘り込んでいる。



第20図 調査区上層図・中央セクション断面図 (1/50)

## 〔古墳時代以前の遺構〕(第19図)

**土壙墓 SK31** 長辺1.5m、短辺0.8mの規模をもつ方形の土坑1基が検出された。土坑には須恵器杯身が据え置かれており、古墳時代後期の埋葬施設の可能性がある。乙訓寺第25次調査でも須恵器提瓶を埋納した土坑が見つかっている。

## 5 まとめ

本調査は、古代乙訓寺の中心伽藍に係る構造解明、及びその他の時代の乙訓寺に関する遺構の確認を目的として実施し、その結果、今回の調査では、長岡京期の乙訓寺の構造を復元する重要な手掛かりを得ることができた。

大型掘立柱建物SB101は、柱間が等間ではないなど不明な点もあるが、乙訓寺第1次及び第26次調査で見つかっている「講堂」とされる建物と同様に乙訓寺の遺構の中で最大規模の柱穴による構造物である。その位置は、現在の南門から数メートル北に位置し、SB101を復元すると、現参道と重なる。そのため、掘立柱構造ではあるが、門に推定される建物であろう。また、今回検出された大型柱穴は、建物の東端にあたり、講堂跡とされる建物の東端の柱列とほぼ同軸上に位置する。SB101の中心となるSK34と講堂跡の中心との距離は約106mであり、同時期に規格的に配置されたものと推定される。仮にSB101が門であるならば、門の位置は伽藍の中軸より東寄りに配置されていることになる。

SB101と一体的な構造物と推定することができる掘立柱建物SB102は、大型ではあるが浅い柱穴であり、SB101より小さい径約0.3mの柱をもつ。その構造は、いずれの柱間も10尺(3m)等間で構成され、講堂が10尺等間の掘立柱構造である点や基壇痕跡が全く確認できていない点など共通性がある。しかし、門(SB101)に取り付く回廊として復元すると、SB101の柱穴とは軸がずれ、特に、南面となるSB101のSK39とSB102の南柱列が同軸上にない点は門と回廊の関係に構造的な問題が残る。そのため、SB101の構造については、補足的な追加調査が必要と考えられる。

また、調査では中心伽藍の規模は不明であるが、南側の区画が中世・近世の区画溝の位置に近接する点を重視すれば、東西についても現境内地の境界付近で確認された中近世の区画溝に近い地点が長岡京期の寺域と推定できるだろう。しかし、未だ主要伽藍に関わる建物の存在は明らかでないなど様々な問題がある。そのため、慎重に検討する必要があるが、今回の調査成果をもとに、古代乙訓寺の調査を今後も継続的に実施していくことで中心伽藍や関連施設の構造を解明していくことが望まれる。

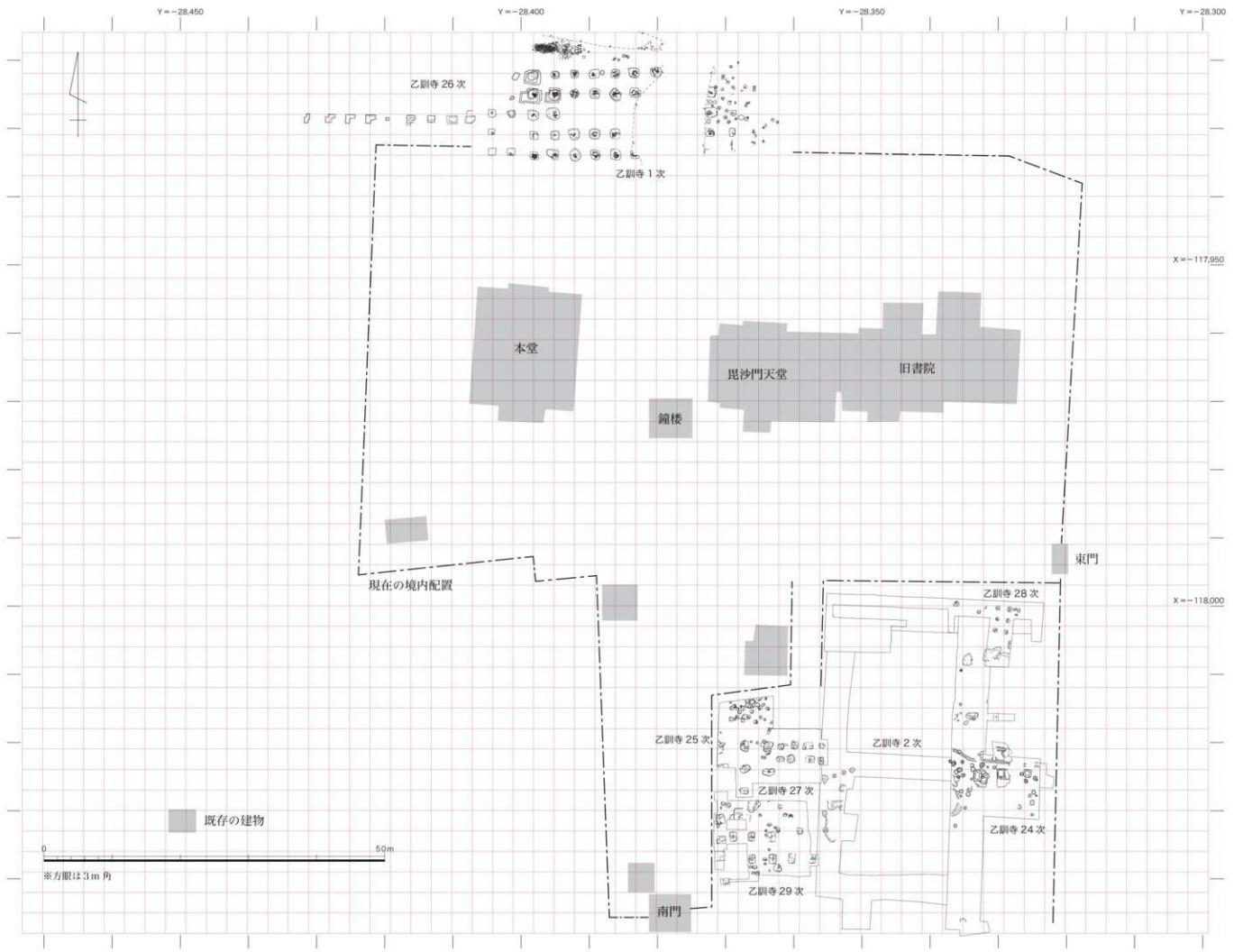
注1) 大高義寛「乙訓寺第24次調査概要」『長岡京市報告書』第71冊 2018年

福家 恭「乙訓寺第25次調査概要」『長岡京市報告書』第72冊 2019年

山下 研「乙訓寺第26次調査概要」『長岡京市報告書』第74冊 2020年

福家 恭「乙訓寺第27次調査概要」『長岡京市報告書』第74冊 2020年

山下 研「乙訓寺第28次調査概要」『長岡京市報告書』第76冊 2021年



第21図 古代乙訓寺全体図 (1/500)

## 第4章 長岡市内遺跡詳細分布調査概要

### 1 はじめに

- 1 本報告は、令和2（2020）年度の令和2年12月1日から令和3年3月31日までの下期と、令和3（2021）年度の令和3年4月1日から11月30日までの上期に実施した詳細分布調査の成果である。よって、令和3年12月1日から令和4年3月31までの成果については、次年度に報告するものとする。また、令和2年度4月1日から11月30日までに実施した詳細分布調査は『長岡市報告書』第76冊で、原因者負担金によって実施した立会調査については『長岡市埋蔵文化財センター年報』令和2年度で、それぞれ報告している。
- 2 調査は、令和2・3年度国庫補助事業として長岡市教育委員会が主体となり、長岡市教育委員会から委託を受けた公益財団法人長岡市埋蔵文化財センターが実施したものである。
- 3 調査にあたっては、工事の申請者や土地所有者をはじめ、工事施工業者の方々に種々のご理解とご協力をたまわった。現地の調査は、山本輝雄、岩崎 誠、原 秀樹、中島皆夫、山下研、大高義寛、猿向敏一が担当した。本報告の編集と執筆は、猿向が行った。

### 2 調査概要

詳細分布調査は、基本的に長岡市内における土木開発事業に伴い実施したものである。このことから、そのほとんどが建築面積の小規模な個人住宅の建設に伴うものであり、ほかに集合住宅や宅地造成工事などといった開発事業にも伴って実施した。さらに、長岡市が実施する公共事業についても、原因者負担事業として実施した上下水道事業を除き、随時実施している。また、詳細分布調査は、その調査件数はもちろんのこと、その調査地点は長岡市全域に広がっており、この詳細分布調査によって得られた成果は、文化財保護との共存を図りながら市内における開発事業を進めるにあたって、貴重で不可欠な情報となっている。

今回報告する令和2年度の下期に実施した調査は100件、令和2年度全体の総計は330件となっている。また、令和3年度の令和3年11月30日までに実施した調査件数は230件である。調査の対象となった遺跡は、長岡京跡をはじめ、北から上里遺跡、井ノ内遺跡、乙訓寺、今里遺跡、今里北ノ町遺跡、弁天芝遺跡、陶器町遺跡、東代遺跡、東代古墳群、西陣町遺跡、開田古墳群、開田城ノ内遺跡、開田遺跡、泉殿跡、神足遺跡、勝龍寺城跡、雲宮遺跡、十三遺跡、谷田瓦窯群、下海印寺遺跡、友岡遺跡、鞘岡庵寺、南栗ヶ塚遺跡、久保古墳群、船遺跡、宮脇遺跡、松田遺跡、脇山遺跡など市内の多くの遺跡がその対象となっており、奥海印寺遺跡の大半と土山遺跡を除くすべての遺跡が長岡京跡と重複している。しかし、長岡京跡としてみると、長岡市の西半部にあたる右京城がその大半を占めており、それに対して、名神高速道路・JR東海道新幹線・国道171号の沿線に広がる工業地帯がその大半を占める長岡市の東半部の左京城は極めて少ない。

### 3 主な調査成果

#### 1. 令和2年度の調査

##### (1) 第20252次調査(第22・23図)

本調査は、個人の鉄骨住宅建設工事に伴い実施した。調査地は開田一丁目9、22-5に所在し、長岡京の条坊復原では右京五条一坊十三町に該当するほか、開田古墳群の範囲にも含まれる。調査地の標高は21m前後で、地形分類では低位段丘Ⅰ上に該当する。

調査は、令和2年12月1・3日に実施した。基礎工事の掘削は、地表下0.6mまで行われた。敷地の東端部において、地表下0.6mの掘削面で橙褐色粘質土層の地山を確認した。この地山面において、茶褐色粘質土層を埋土とする径0.4mの小穴を検出した。この小穴からの遺物は認められなかったが、橙褐色粘質土層の地山層の直上の褐色粘質土層からは、瓦器碗の小片が出土した。

##### (2) 第20286次調査(第24・25図)

本調査は、個人の木造住宅建設工事に伴い実施した。調査地は今里薬師堂5-41、5-52に所在し、長岡京の条坊復原では右京四条四坊二町に該当するほか、今里遺跡にも含まれる。調査地の標高は37m前後で、地形分類では低位段丘Ⅰ上に該当する。調査は、令和3年1月13日に実施した。基礎工事の掘削は、地表下1.2mまで行われた。地表下1mの黒褐色土層から掘り込まれた径0.1mの小穴を1基検出した。地表下1.1mの掘削面で黄褐色土層の地山を確認した。



第22図 第20252次調査位置図(1/5000)



第23図 第20252次調査の小穴全景(東から)



第24図 第20286次調査位置図(1/5000)



第25図 第20286次調査の断面(北から)

## 2. 令和3年度の調査

### (1) 第21008次調査(第26・27図)

令和3年4月6日、工事中に土器のようなものが出土したとの連絡が当埋蔵文化財センターにあったため、直ちに現地に赴いて現状の把握と聞き取りなどを行った。出土地点は、神足二丁目10-18に所在する個人の住宅地で、長岡京の条坊復原では右京七条一坊十六町に該当するほか、神足遺跡、近世勝龍寺城跡にも含まれる。標高16m前後、地形分類では低位段丘上に該当する。門扉の新設工事のために、東西約1.3m、南北約1.4mの坑が約1.1mの深さまで掘り窪められていた。坑の底面および壁面を精査したところ、擾乱を受けた部分もあったものの、現地表下0.4mの橙褐色粘質土層の地山を切り込んだ土坑状の遺構を検出すことができた。土坑状遺構の規模は、半径0.8m以上、深さ0.7m以上を測る。平面的には東西0.9m、南北0.7m程を確認できた。状況的に大型の土坑となりそうである。遺構の埋土は、暗褐色粘質土層一層で、土師器と平瓦の破片を採集することができた。

第28・29図は、図示できた出土遺物である。土師器の杯B(2)は、杯A(1)の底部に高台を貼り付けた形態で、高台径は17.2cmに復元できた。皿A(1)は、口径15cm、器高2.6cmに復元でき、外側の調整は底部から口縁部までヘラケズリするc手法で仕上げている。壺C(3)は、いわゆる墨書き土器タイプの小型品で、口縁部外側と内側をナデ調整し、底部外側は未調整である。口径10.7cm、器高は3.8cmに復元できた。甕A(4・5)は、口縁端部を内側に折り曲げて肥厚させるタイプのもの。4は口径16.6cmを測る。口縁部外側は、ヨコハケの後にヨコナデを施し、内側はヨコハケ調整する。5は口径27cmを測る。口縁部の外側は、タテハケの後にヨコナデを施し、内側はヨコハケ調整する。平瓦(6)は厚さが2.8cmもある重厚な作りのもので、須恵質に焼成され、灰色を呈している。凸面はナデ調整し、四面は布目痕の上からナデを加え、凹面端部と側面をケズリ調整して仕上げている。これらの遺物は、いずれも長岡京期に比定できるものである。

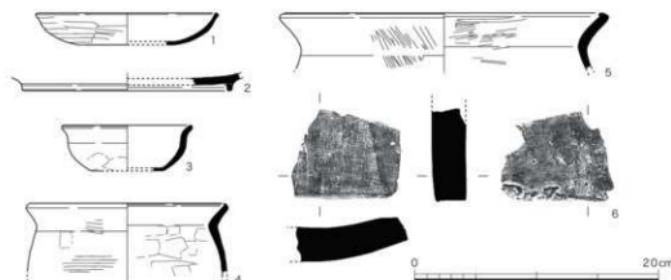
遺構的には全形をうかがえないこともあり、この土坑状遺構の性格は不明と言わざるを得ないが、長岡京跡右京七条一坊十六町内に配された遺構であった可能性が高いと考えてよいだろう。



第26図 第21008次調査地位置図(1/5000)



第27図 第21008次調査全景(南から)



第28図 第21008次調査出土遺物実測図（1/4）



第29図 第21008次調査出土遺物

## (2) 第21067次調査(第30・31図)

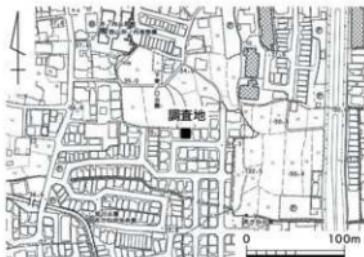
本調査は、個人の木造住宅建設工事に伴い実施した。調査地は井ノ内南内畑 28-10 に所在し、長岡京の条坊復原では右京二条三坊五町、二条大路に該当するほか、井ノ内遺跡にも含まれる。調査地は標高 35 m 前後の宅地で、地形分類では低位段丘Ⅰ上に該当する。調査は、令和3年6月14日に実施した。基礎工事の掘削は、地表下 0.4 m まで行われた。土層の堆積状況は、地表下 0.4 m で褐色砂礫層の地山を確認した。調査地北西部で掘削幅 0.5 m、南北 1.8 m 以上の茶褐色粘質土層を埋土とする土坑状遺構を検出した。土師器片が出土しているが、器形や時期などは不明。

## (3) 第21210次調査(第32・33図)

本調査は、個人の木造住宅建設工事に伴い実施した。調査地は久貝三丁目130-42に所在し、長岡京の条坊復原では右京九条一坊十町に該当するほか、久保古墳群の範囲にも含まれる。調査地は標高16m前後の宅地で、地形分類では高位段丘上に該当する。

調査は、令和3年10月29日に実施した。基礎工事の掘削は、地表下0.35mまで行われた。土層の堆積状況は、整地土層の表土下0.15mで、橙褐色粘質土層の地山を確認した。そして、調査地北東部で、その地山を掘り込むいくつかの遺構を検出した。暗褐色粘質土層を埋土とするもので、溝と土坑と考えられる。溝は2条検出した。ほぼ直交する位置関係にある幅0.3m程のものと幅3m程のものであり、掘削部分の断面での観察では深さ0.2m以上を測る。また、土坑は部分的な検出となつたが、幅0.3mの溝に隣接するもので、概ね径2.5m程の規模を測る大型土坑と推察できそうである。

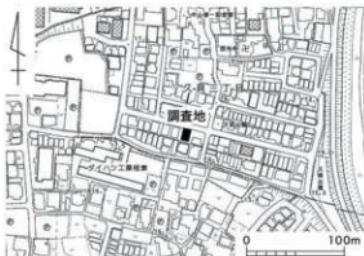
これらの遺構の検出状況からは、ほかの遺構の存在の可能性が想定されるものの、残念ながら、今回の掘削範囲では確認できなかった。また、遺物的にもそれぞれの遺構からはもちろん、遺物包含層も確認できなかつたことから、残念ながら遺構の時期・性格とも特定することはできなかつた。とはいへ、調査地は恵解山古墳をはじめとして、久保古墳群などの古墳群が分布する小畠川に東接する高位段丘上に位置する。これまで、調査地周辺では発掘調査事例が少ないとから、今後、古墳時代を中心とした集落遺跡の発見に期待したい。



第30図 第21067次調査位置図(1/5000)



第31図 第21067次調査の土坑全景(西から)



第32図 第21210次調査位置図(1/5000)



第33図 第21210次調査の溝全景(西から)

付表-2 長岡市内遺跡詳細分布調査一覧表-1（令和2年12月～令和3年3月）

調査 次数	道 跡 名	所 在 地	工事内容	調 査 日	調 査 概 要
20246	長岡京跡左京七条一坊 七条大路	城の里6-14	木造2階建	12月1日	GL-20cmの掘削。盛土のみを確認。
20247	長岡京跡左京六条一坊	神足屋敷37の一部、38- 1の一部、53、53-1、53- 2	鉄骨2階建	12月4日	GL-20～30cmの掘削。盛土のみを確認。
20250	長岡京跡右京四条四坊 長法寺道路	長法寺清水ヶ灘13-4	木造2階建	12月7日	GL-30cmの掘削。盛土のみを確認。
20251	長岡京跡右京二条二坊 井ノ内遺跡 井ノ内古墳群	井ノ内広海道34-1の一部 (4号地)	木造2階建	12月1・2日	GL-40～80cmの掘削。竹製の客土の範囲内に収まる。
20252	長岡京跡右京五条一坊 開田古墳群	開田一丁目9、22-5	鉄骨2階建	12月1・3日	本文中に内容を掲載。
20253	長岡京跡右京六条四坊	梅が丘三丁目45-2	木造2階建	12月2日	GL-170cmの掘削。GL-100cmで大阪層群の地山を確認。
20254	長岡京跡右京二条四坊 井ノ内遺跡 井ノ内古墳群	井ノ内広海道34-1の一部 (5号地)	木造2階建	12月3日	GL-40cmの掘削。掘削底面で橙褐色砂礫層の地山を確認。
20255	長岡京跡圓通遺跡	奥海印寺太鼓山41-12他	木造2階建	12月7日	敷地南部部状地盤改良工事済み。基礎の掘削はほとんど無く、土盛工事であった。
20257	長岡京跡右京八条三坊 西三坊大路	下海印寺川向井5-11 (No.17)	木造2階建	12月8・16日	柱状地盤改良工事、GL-30～80cmの掘削。盛土のみを確認。
20260	長岡京跡右京五条一坊 開田古墳群	開田一丁目9、22-5の各一部	鉄骨2階建	12月3日	第20252次調査を行った際に合わせて実施。GL-30cmの掘削。盛土のみを確認。
20261	長岡京跡右京六条一坊 朱雀大路 神足遺跡	東神足一丁目3-84	木造2階建	12月11日	GL-20cmの掘削。盛土のみを確認。
20262	長岡京跡右京七条二坊	神足二丁目606-2、607- 6	木造2階建	12月11日	GL-70cmの掘削。盛土のみを確認。
20263	長岡京跡左京八条一坊	城の里16-8	木造2階建	12月11日	GL-30cmの掘削。盛土のみを確認。
20264	長岡京跡右京六条四坊	梅が丘三丁目45-1	木造2階建	12月14日	既に基礎、終了していた。掘削深度は不明。
20265	長岡京跡右京四条二坊 今里遺跡 今里北ノ町遺跡	今里北ノ町10-18	木造2階建	12月17日	GL-25cmの掘削。盛土のみを確認。
20267	長岡京跡右京三条二坊	今里川原1-58、1-59	木造2階建	12月21日	GL-15cmの掘削。盛土のみを確認。
20268	長岡京跡圓通遺跡	奥海印寺太鼓山22-48の一部、22-5の一部 (4号地)	木造2階建	12月21日	GL-20cmの掘削。盛土のみを確認。
20270	長岡京跡右京七条四坊 八条大路	下海印寺西明寺10-19 (No.28)	木造2階建	12月22日 1月18日	柱状地盤改良工事、GL-180cmの掘削。GL-120cmまでの盛土を確認した。
20271	長岡京跡右京九条一坊 久保古墳群	久貝三丁目130-11	木造2階建	12月22日	GL-35cm、一部 GL-50cmの掘削。GL-45cmで橙褐色粘質土層の地山を確認。
20272	長岡京跡左京六条一坊 雲宮道路	神足神田7-24、8-10	木造3階建	12月23日 1月20日	GL-20～30cmの掘削。盛土のみを確認。
20273	長岡京跡右京四条一坊	一文橋一丁目11-38	木造2階建	12月23日 1月13日	柱状地盤改良工事、土層観察不可。 基礎、GL-20cmの掘削。盛土のみを確認。
20275	奥海印寺遺跡	奥海印寺東条16-3の一部 1号棟	木造2階建	12月24日	GL-20cmの掘削。盛土のみを確認。
20276	奥海印寺遺跡	奥海印寺東条16-3の一部 12-8の一部 2号棟	木造2階建	12月25日	GL-20cmの掘削。盛土のみを確認。

調査 次数	遺跡名	所在地	工事内容	調査日	調査概要
20277	長岡京跡右京九条二坊 宿道跡	調子二丁目 230-1 の一部	鉄骨2階建	12月28日	敷地は、北側道路面よりも100cmほど高い。GL-25cmの掘削。盛土のみを確認。
20278	長岡京跡右京七条二坊 開田道跡	神足三丁目地内	側溝改修工事	1月5・8・ 20・29日 2月1・15日 3月8・9・ 29日	道路南側の掘削。GL-90～110cm、一部 GL-130cmの掘削。既設管により搅乱を受けていたが、GL-60cmで茶褐色粘土層、GL-70～80cmで黄褐色粘土質土層、GL-100cmで淡黃灰色粘土層の地山を確認。 道路北側の掘削。GL-100～140cmまで掘削。GL-45cmで茶色シルト層の堆積を確認。 GL-100cmの掘削。GL-55cmで茶灰色粘土層、その下の GL-70cmで白粘土層の地山を確認。
20279	奥海印寺遺跡	奥海印寺東条16-3の一部 3号樁	木造2階建	1月7日	GL-20cmの掘削、盛土のみを確認。
20280	奥海印寺遺跡	奥海印寺東条16-3の一部 12-8の一部 4号樁	木造2階建	1月7日	GL-20cmの掘削、盛土のみを確認。
20281	長岡京跡右京二条二坊 井ノ内道跡 井ノ内古墳群	南ノ町二丁目 45	木造2階建	1月7日	GL-20cm、西辺部のみ GL-40cm の掘削。 盛土のみを確認。
20282	長岡京跡開闢道跡	長法寺南谷 9-3	木造2階建	1月12日	GL-50cmの掘削。GL-35cmで大阪府群の地山とみられる緑灰色粘土層の堆積を確認。
20283	長岡京跡左京六条一坊 雲宮道跡	神足安生 2-7 (4号地)	木造2階建	1月12日	GL-20cmの掘削。盛土のみを確認。
20284	長岡京跡右京三条二坊 西二坊坊間西小路 今里道跡	今里畔町 10-6	木造2階建	1月12日	GL-35cmの掘削。盛土のみを確認。
20285	長岡京跡右京四条四坊 今里道跡	うぐいす台 163-1	木造2階建	1月13日	柱状地盤改良工事、GL-150cmまでの掘削。 土層観察は不可。
20286	長岡京跡右京四条四坊 今里道跡	今里菜蒔堂 5-41、5-52	木造2階建	1月13日	本文中に内容を掲載。
20287	奥海印寺遺跡	奥海印寺多賀坂外 15-1	鉄骨2階建	1月15日	GL-35cmの掘削。盛土のみを確認。
20288	長岡京跡右京六条二坊 開田道跡	開田二丁目地内	側溝改修工事	1月15・22・ 29日 2月3・9・ 12・26日 3月9日	道路東側、GL-80～100cmの掘削。 西壁では掘削底面まで既設管により搅乱。GL-60～70cmで茶褐色粘土層の地山を確認。 道路西側、GL-80cmの掘削。 東壁は既設管により搅乱。 西壁は、GL-65cmで明橙褐色粘土層と GL-70cmで橙褐色粘土層の地山を確認。
20289	長岡京跡右京八条三坊 友岡道跡	友岡三丁目 125-1, 125-13	宅地造成	1月15日 2月9日	敷地南東隅での擁壁工事。GL-150cmの掘削。 盛土のみを確認。 下水管の引き込み工事。GL-150cmの掘削。 GL-70cmで茶褐色粘土層、GL-100cmで暗茶褐色確認じり土層の堆積を確認。
20290	長岡京跡開闢道跡	栗生北開 16-2 の一部、 16-8, 16-12 (3号地)	木造2階建	1月18日	GL-40cmの掘削。盛土のみを確認。
20291	長岡京跡右京七条一坊 勝龍寺城(中世)	勝竜寺 110-30, 110-65	木造2階建	1月18日	GL-50cmの掘削。盛土のみを確認。
20292	長岡京跡開闢道跡	栗生北開 16-2 の一部、 16-7, 16-11 (2号地)	木造2階建	1月18日	GL-50cmの掘削。盛土のみを確認。
20293	長岡京跡右京四条二坊 今里北ノ町道跡	野添一丁目地内	側溝工事	1月18・21日 2月12日	道路北辺の工事。GL-80～100cmの掘削。 GL-70～100cmの掘削、GL-100cmで、暗 灰褐色粘土層の堆積を確認。
20295	長岡京跡右京六条四坊	天神二丁目 101-85 (9号地)	木造2階建	1月19日	柱状地盤改良工事込み。GL-10cm、一部 GL-40cmの掘削。盛土のみを確認。

調査 次数	遺跡名	所在地	工事内容	調査日	調査概要
20297	長岡京跡右京五条二坊	長岡一丁目 309-6	木造2階建	1月 21日	GL~30 ~ 40cm の掘削。盛土のみを確認。
20298	長岡京跡右京七条四坊 下海印寺跡	下海印寺北条 35-1、55、 27-14	鉄骨2階建	1月 25日 2月 1日	柱状地盤改良工事、GL~270cm の掘削。土層観察は不可。 基礎、GL~30cm の掘削。盛土のみを確認。
20299	長岡京跡右京六条四坊 西西坊間東小路	天神二丁目 101-90、101 -91 (7号地)	木造2階建	1月 25・29 日	柱状地盤改良工事、GL~150 ~ 180cm の掘削。 基礎、GL~20cm の掘削。盛土のみを確認。
20300	長岡京跡右京一条二坊 一条大路	瀬ノ町二丁目 32-11、32 -12	木造2階建	1月 25日 2月 3日	表層地盤改良工事、GL~70cm の掘削。GL~20 cm で淡黄灰色粘質土層、GL~40cm で黄灰色 砂礫層の堆積を確認。
20301	長岡京跡右京三条四坊	栗生田内 28-97	木造2階建	1月 27日	GL~20cm の掘削。盛土のみを確認。
20302	長岡京跡左京六条二坊 雲宮遺跡 櫛次遺跡	神足櫛次8・9合併、他7 筆	鉄骨3階建	1月 28日 2月 10・12 日	柱状地盤改良工事、GL~900cm の掘削。土層 観察は不可。 基礎、GL~80 ~ 150cm の掘削。GL~120cm 以下で青灰色粘土層の堆積を確認した。
20303	長岡京跡右京四条二坊	長岡一丁目 59-1	木造2階建	2月 1日	GL~30cm の掘削。盛土のみを確認。
20304	長岡京跡右京五条二坊 五条大路 開田城／内遺跡	開田一丁目 455-8	鉄筋9階建	2月 1・16・ 18・19・22・ 25日	柱状地盤改良工事、GL~160cm の掘削。土層 観察は不可。 基礎、GL~180cm の掘削。GL~160cm で地山 を確認。GL~240 ~ 280cm の掘削。GL~170 cm で茶褐色砂質土層の堆積を確認。 南東削部、GL~270cm の掘削。GL~100cm で黄褐色砂質シルト層の堆積を確認。
20306	長岡京跡（長岡宮）	瀬ノ町一丁目 37-8 の一部	木造2階建	2月 3・9日	柱状地盤改良工事、土層の観察は不可。 基礎、GL~30cm の掘削。盛土のみを確認。
20308	長岡京跡左京八条一坊	城の里 22-12	鉄骨2階建	2月 8日	GL~50cm の掘削。盛土のみを確認。
20309	長岡京跡左京七条二坊 雲宮遺跡	神足落第 10	鉄骨1階建	2月 8日	表層地盤改良工事、GL~170cm の掘削。盛土 のみを確認。
20310	長岡京跡右京五条四坊 四条大路 長法寺遺跡	長法寺芝端 7-8	木造2階建	2月 9・12日	柱状地盤改良工事済み。GL~50cm の掘削。 盛土のみを確認。 基礎、GL~100cm の掘削。盛土のみを確認。
20311	長岡京跡右京六条四坊	天神二丁目 111-44	木造2階建	2月 10日	GL~30cm の掘削。盛土のみを確認。
20312	長岡京跡左京六条一坊	神足麦生 2-6	木造2階建	2月 12日	GL~30cm の掘削。盛土のみを確認。
20313	長岡京跡左京六条一坊 六条条間南小路 雲宮遺跡	神足芝本 16-16	鉄骨2階建	2月 12日	柱状地盤改良工事、GL~700cm の掘削。土層 観察は不可。
20314	長岡京跡右京四条二坊	長岡一丁目 59-8	木造3階建	2月 15日	GL~30cm の掘削。盛土のみを確認。
20315	長岡京跡右京五条四坊	今里南平尾 16-21	鉄骨2階建	2月 15・19 日	柱状地盤改良工事、GL~600cm の掘削。土層 観察は不可。 基礎、GL~20cm の掘削。盛土のみを確認。
20317	長岡京跡右京五条三坊 五条大路 開田城／内遺跡	長岡二丁目 101-6	木造4階建	2月 16・17・ 19・22・25 日	基礎、GL~80 ~ 130cm の掘削。GL~65cm で淡黄褐色砂質土層、GL~90cm で黄褐色 砂質土層の地山を確認。 土留工事、GL~100cm の掘削。GL~30cm で 淡黄褐色砂質土層、GL~60cm で黄褐色砂質土 層の地山を確認。縁辺部土留工事。東辺部では GL~60cm の掘削。GL~30cm で黄褐色砂質シ ルト層の地山を確認。西辺部では GL~100 ~ 130cm の掘削。すべて盛土および復乱。
20318	長岡京跡右京五条四坊	今里南平尾 16-26	鉄骨2階建	2月 17・24 日	柱状地盤改良工事、GL~500cm の掘削。土層 観察は不可。 基礎、GL~20cm の掘削。盛土のみを確認。

調査 次数	遺跡名	所在地	工事内容	調査日	調査概要
20319	長岡京跡右京四条二坊	柴の里1-64	木造1階建	2月18日	GL~50cmの掘削。盛土のみを確認。
20320	長岡京跡右京七条四坊	下海印寺西山田17-3他 (11号地)	木造2階建	2月18日	GL~20cm、一部 GL~70cmの掘削。盛土のみを確認。
20321	長岡京跡右京五条四坊	今里南平尾16-25	鉄骨2階建	2月18・22日	柱状地盤改良工事、GL~350cmの掘削。土層観察は不可。 基礎、GL~20cmの掘削。盛土のみを確認。
20322	長岡京跡右京八条四坊	泉が丘19-9	木造2階建	2月18日	GL~30cmの掘削。盛土のみを確認。
20323	長岡京跡右京五条四坊	今里南平尾16-23	鉄骨2階建	2月19・26日	柱状地盤改良工事、GL~400cmの掘削。土層観察は不可。 基礎、GL~20cmの掘削。盛土のみを確認。
20324	長岡京跡右京四条二坊	長岡一丁目41-85	木造2階建	2月22日	建物基礎線掘り、GL~30cmの掘削。盛土のみを確認。 上水道設置替線掘り、GL~120cmの掘削。埋戻土のみを確認。
20325	長岡京跡右京三条二坊 今里遺跡	今里更ノ町25-7 (1号地)	木造3階建	2月24日 3月11日	柱状地盤改良工事、GL~375cmまでの掘削予定だったが、地下埋設物のため中止。土層観察は不可。 基礎、GL~140cmの掘削。盛土のみを確認。
20326	長岡京跡右京三条二坊	今里更ノ町3-11、1-6	木造3階建	2月24日	GL~40cmの掘削。盛土のみを確認。
20327	長岡京跡左京七条一坊 七条大路	城の里5-20	木造2階建	2月24日	GL~30~70cmの掘削。盛土のみを確認。
20328	長岡京跡右京八条四坊	下海印寺西明寺10-29 (No.24)	木造2階建	2月26日 3月1日	柱状地盤改良工事、GL~250cmの掘削。GL~50cmまで埴成土、GL~150cmで暗灰色土層の堆積を確認。 基礎、GL~40cmの掘削。盛土のみを確認。
20329	長岡京跡右京五条四坊	今里南平尾16-33	鉄骨2階建	2月26日 3月8日	柱状地盤改良工事、GL~450cmの掘削。土層観察は不可。地表面で大阪層群の地山とみられる粘土層、砂礫層を確認。基礎、GL~30cmの掘削。地表面で大阪層群とみられる棕白色粘土層、淡灰色砂層の地山を確認。
20330	長岡京跡右京二条三坊 井ノ内遺跡 上里遺跡	井ノ内北内畠3-4、3-5	鉄骨2階建	3月1日	東部の南部は GL~40cm、北部は GL~100~130cmの掘削。GL~60cmで暗褐色薄色硬質土層の地山を確認。
20331	長岡京跡右京七条四坊 七条大路	下海印寺西明寺10-23 (No.27)	木造2階建	3月1日	柱状地盤改良工事済み。GL~5cmの掘削。盛土のみを確認。
20332	長岡京跡右京二条二坊 二条一条間北小路	岡ノ町2丁目32-4	木造2階建	3月3日	GL~10cm以上の掘削。盛土のみを確認。
20333	長岡京跡右京八条三坊 友禅遺跡 附田庵寺	友岡四丁目30-22、30-23	木造2階建	3月3日	GL~20cm以上の掘削。盛土のみを確認。
20334	長岡京跡右京八条二坊	緑が丘101-21	木造3階建	3月3日	GL~50cmの掘削。盛土のみを確認。
20336	長岡京跡右京四条二坊 西二坊坊間小路	野添一丁目8-9	宅地造成	3月4日	GL~15cmの掘削。盛土のみを確認。
20338	長岡京跡左京六条一坊 雲宮遺跡	東和苑20-7	木造3階建	3月4・8日	柱状地盤改良工事、GL~325~425cmまでの掘削。土層観察は不可。基礎、GL~20cm、一部 GL~50cmの掘削。盛土のみを確認。
20339	長岡京跡右京七条一坊 神足遺跡 勝龍寺城跡(中世)	勝竜寺507-72	木造3階建	3月4日	GL~70cmの掘削。GL~50cmで暗灰褐色粘土層の堆積を確認。
20340	長岡京跡右京七条四坊 七条大路	下海印寺西明寺10-25 (No.26)	木造2階建	3月5・9日	柱状地盤改良工事、土層観察は不可。 基礎、GL~5cm程の掘削と、碎石を15cm程の土盛り。盛土のみを確認。
20341	長岡京跡右京四条二坊 西二坊坊間小路	野添一丁目20-84	木造3階建	3月8日	GL~15cm、一部 GL~50cmの掘削。盛土のみを確認。

調査 次数	道 跡 名	所 在 地	工事内容	調 査 日	調 査 概 要
20342	長岡京跡右京六条二坊 開田遺跡 泉殿跡	開田四丁目 507 の一部	鉄筋 2 階建	3月 8・23・ 24・25・26・ 29・30・31 日	柱状地盤改良工事、GL-360cm の掘削。土層 観察は不可。敷地西辺基礎工事、GL-170～ 210cm の掘削。盛土のみを確認。北壁、GL- 130～160cm で耕作土。GL-155～180cm 以下で暗茶灰色粘質土層の堆積を確認。
20343	長岡京跡右京六条四坊 下海印寺遺跡	奥跡寺岡本 8-1	鉄骨 2 階建	3月 8・10 日	柱状地盤改良工事、GL-270～500cm の掘削。 土層観察は不可。基礎、GL-20cm の掘削。盛土のみを確認。
20344	長岡京跡右京七条四坊 七条大路	下海印寺西明寺 10-11 (No.29)	木造 2 階建	3月 10 日	柱状地盤改良工事済み。GL-40cm の掘削。 盛土のみを確認。
20345	長岡京跡右京三条三坊 今里遺跡	今里更ノ町 48-4	木造 2 隘建	3月 11・15 日	柱状地盤改良工事、GL-280cm の掘削。土層 観察は不可。 基礎、GL-30cm の掘削。盛土のみを確認。
20346	長岡京跡右京七条四坊 七条大路	下海印寺西明寺 31-9 (31 号地)	木造 2 隘建	3月 11 日	造成面から 10cm 程度の盛土、掘削は無し。 盛土のみを確認。
20347	長岡京跡右京七条四坊 七条大路	下海印寺西明寺 31-10 (32 号地)	木造 2 隘建	3月 11 日	GL-15cm の掘削。盛土のみを確認。
20348	長岡京跡右京二条二坊	瀬ノ町二丁目 34-7	木造 2 隘建	3月 12 日	GL-30cm の掘削。盛土のみを確認。
20349	長岡京跡右京二条三坊 井ノ内遺跡 上里遺跡	井ノ内南内堀 42、43・ 44 合併	宅地造成	3月 15・16 日	敷地の北辺と東辺、GL-35cm の掘削。盛土 のみを確認。 敷地南辺、GL-30cm 掘削。盛土のみを確認。
20350	長岡京跡右京三条二坊 今里遺跡	今里更ノ町 25-8 (2 号地)	木造 2 隘建	3月 16 日	GL-35cm の掘削。盛土のみを確認。
20351	長岡京跡右京四条三坊	長岡三丁目 115-11	木造 2 隘建	3月 16 日	敷地の北辺と南辺、GL-40cm 掘削、掘削底面 で棕褐色粘質土層の地山を確認。
20352	土山遺跡	金ヶ原御所ノ内 1-8	木造 2 隘建	3月 16 日	GL-20cm、一部 GL-50cm の掘削。盛土のみ を確認。
20354	長岡京跡右京五条三坊	天神五丁目 102-16 (3 号地)	木造 2 隘建	3月 17 日	GL-20cm の掘削。盛土のみを確認。
20355	長岡京跡右京五条三坊	天神五丁目 102-5 (14 号地)	木造 2 隘建	3月 17 日	GL-30cm の掘削。盛土のみを確認。
20357	長岡京跡右京七条四坊	下海印寺西山田 40-7	木造 1 隘建	3月 23 日	GL-40cm の掘削。盛土のみを確認。
20358	長岡京跡右京五条三坊	天神五丁目 102-7	木造 2 隘建	3月 24 日	GL-30cm の掘削。盛土のみを確認。
20359	長岡京跡右京二条二坊 二条大路	瀬ノ町一丁目 1-11	木造 2 隘建	3月 25 日	柱状地盤改良工事済み。GL-10cm の掘削。 盛土のみを確認。
20360	長岡京跡右京四条二坊	野添一丁目 36-13	木造 2 隘建	3月 26 日	GL-30cm の掘削。盛土のみを確認。
20361	長岡京跡右京四条二坊	野添一丁目 7-52	木造 2 隘建	3月 29 日	柱状地盤改良工事済み。GL-35cm の掘削。 盛土のみを確認。
20362	長岡京跡右京一条二坊 一条大路	瀬ノ町二丁目 108-17	木造 2 隘建	3月 29 日	GL-35cm の掘削。盛土のみを確認。

付表-3 長岡市内遺跡詳細分布調査一覧表-2（令和3年4月～11月）

調査 次数	遺跡名	所在地	工事内容	調査日	調査概要
21001	長岡京跡右京八条四坊 七条大路	下海印寺西明寺 10-32、 西山田 41-10 (No.12)	木造2階建	4月1・5日	柱状地盤改良工事、GL-200cmの掘削。GL-100cmまで盛土。それ以下の土層観察は不可。 基礎、現表面から砂石で25cm程度嵩上げ、擁壁部分で GL-75cm の掘削。盛土のみを確認。
21002	長岡京跡右京五条三坊	天神五丁目 102-8 (11号地)	木造2階建	4月5日	GL-30cmの掘削。GL-5cmで淡灰褐色砂質土層の堆積を確認。
21004	長岡京跡右京五条三坊	天神四丁目 77-56	木造2階建	4月5日	GL-20cm、一部 GL-60cmの掘削。盛土のみを確認。
21005	長岡京跡右京一条二坊 一条大路	滝ノ町二丁目 104、108- 21	宅地造成	4月5・7日	敷地西辺の開溝敷設工事、GL-70cmの掘削。 GL-35cmで耕作土を確認。 開溝敷設工事、GL-70cmの掘削。盛土のみを確認。
21006	長岡京跡右京三条一坊	今里川原 7-23	木造2階建	4月6日	GL-40cm、一部 GL-80cmの掘削。盛土のみを確認。
21007	長岡京跡右京五条三坊	天神五丁目 102-18 (1号地)	木造2階建	4月6日	柱状地盤改良工事済。GL-30cmの掘削。盛土のみを確認。
21008	長岡京跡右京七条一坊 冲足道跡 勝應寺城跡(逝世)	神足二丁目 10-18	門扉設置	4月6日	本文中に内容を掲載。
21010	土山遺跡	金ヶ原御所ノ内 1-7	木造2階建	4月9日	GL-25cmの掘削。盛土のみを確認。
21012	長岡京跡右京八条四坊	下海印寺西明寺 10-31 (No.23)	木造2階建	4月12日	柱状地盤改良工事済。GL-20cmの掘削。盛土のみを確認。
21013	長岡京跡右京五条二坊	長岡一丁目 222-1 の一部 (2号棟)	木造2階建	4月13日	GL-25cmの掘削。盛土のみを確認。
21014	長岡京跡右京七条一坊 七条条間小路	神足二丁目 605-47	木造3階建	4月13日	柱状地盤改良工事、GL-325cmの掘削。深度は不明だが、盛土の下に暗灰色粘土層の堆積を確認。犬用の祀壇によるものか。
21015	長岡京跡右京七条四坊	下海印寺西山田 16-14 他 (14号地)	木造2階建	4月13日	GL-20cm、一部 GL-50cmの掘削。盛土のみを確認。
21016	土山遺跡	金ヶ原御所ノ内 1-11 (8号地)	木造2階建	4月14日	GL-50cmの掘削。盛土のみを確認。
21017	長岡京跡右京七条二坊 開田遺跡	神足三丁目 214-1 の一部	鉄骨3階建	4月14・15日	敷地南辺の掩壁工事、GL-120cmの掘削。盛土のみを確認。敷地東辺の掩壁工事、GL-120cmの掘削。盛土のみを確認。
21018	長岡京跡右京六条二坊 開田遺跡	開田四丁目 708-4	木造2階建	4月15日 5月10日	柱状地盤改良工事、GL-250cmの掘削。土層観察は不可。 基礎、GL-30cmの掘削。盛土のみを確認。
21019	長岡京跡右京八条一坊 南塙ヶ塚遺跡	久貝二丁目 316-5	木造2階建	4月16日	柱状地盤改良工事、GL-180cmの掘削。土層観察は不可。
21021	長岡京跡右京五条三坊	天神五丁目 102-12	木造2階建	4月20日	GL-30cmの掘削。GL-30cmで淡黄灰色砂質土層の堆積を確認。
21022	長岡京跡右京八条四坊	下海印寺西明寺 10-34 (13号地)	木造2階建	4月20日	柱状地盤改良工事済。GL-30cmの掘削。盛土のみを確認。
21023	長岡京跡右京七条四坊 西四坊大路	下海印寺西山田 16-12 (16号地)	木造2階建	4月20日	GL-20cmの掘削。盛土のみを確認。
21024	長岡京跡右京六条三坊 開田遺跡 十三遺跡	天神一丁目 608、608-1、 609、609-1	鉄筋4階建	4月21～ 23・26日	柱状地盤改良工事。GL-160cmの掘削。盛土のみを確認。 基礎、GL-140～200cmの掘削。盛土のみを確認。
21026	長岡京跡右京六条二坊 雲宮遺跡	神足神田 10-27	木造2階建	4月22・27日	柱状地盤改良工事、GL-425cmの掘削。土層観察は不可。 基礎、GL-30cmの掘削。盛土のみを確認。
21027	長岡京跡右京九条一坊 久保古墳群	久貝三丁目 130-40	木造2階建	4月26日	GL-40cmの掘削。盛土のみを確認。

調査 次数	遺跡名	所在地	工事内容	調査日	調査概要
21028	長岡京跡右京六条一坊 雲宮遺跡	神足生田 2-8	木造 2 附建	4月 26 日	GL~20cm の掘削。盛土のみを確認。
21029	長岡京跡右京三条二坊 今里遺跡	今里櫛ノ尻 1-8、1-18	木造 3 附建	4月 26 日	GL~20cm の掘削。盛土のみを確認。
21030	長岡京跡右京五条一坊	開田一丁目 28-61 の一部	木造 2 附建	5月 6 日	GL~30cm の掘削。盛土のみを確認。
21031	長岡京跡左京七条一坊 東一坊坊間西小路	城の里 5-19	木造 2 附建	5月 6 日	GL~30cm の掘削。盛土のみを確認。
21033	長岡京跡右京七条四坊 下海印寺遺跡	奥海印寺森ノ下 28-26、 28-27	木造 2 附建	5月 6 日	GL~10cm の掘削。盛土のみを確認。
21034	長岡京跡右京六条四坊 下海印寺遺跡	奥海印寺岡本 8-2 の一部 (8号地)	木造 2 附建	5月 10 日	GL~20cm の掘削。盛土のみを確認。
21035	長岡京跡右京四条四坊 西四坊坊間東小路 今里遺跡	うぐいす台 177	木造 2 附建	5月 10 日	GL~40cm の掘削。盛土のみを確認。
21036	長岡京跡右京六条三坊 六条条間北小路 西陣町遺跡	天神二丁目 20-5 の一部	木造 2 附建	5月 11 日	GL~40cm の掘削。盛土のみを確認。
21037	長岡京跡右京七条四坊	下海印寺西明寺 10-12、 西山田 65-1 (No.1)	木造 2 附建	5月 12・20 日	柱状地盤改良工事、GL~150cm の掘削。盛土の堆積を確認。 基礎、GL~60cm の掘削。盛土のみを確認。
21038	長岡京跡右京四条二坊	長岡一丁目 52-10、52- 18	鉄骨 2 附建	5月 12 日	GL~180cm の掘削。掘削底面で地山を確認。
21039	長岡京跡右京七条二坊 七条条間北小路 開田遺跡	神足三丁目 126-6	木造 3 附建	5月 13 日	GL~40cm の掘削。GL~30cm で灰褐色粘質土層、その下の掘削底面で橙褐色粘質土層の地山を確認。
21040	長岡京跡右京五条二坊 開田古墳群	長岡一丁目 511-6 (No.1)	木造 2 附建	5月 14 日	GL~40cm の掘削。GL~20cm で茶褐色土層の堆積を確認。土器器の断片が 1 点出土。
21041	長岡京跡左京六条二坊 東一坊大路 雲宮遺跡	神足神田 10-7	木造 2 附建	5月 17 日	柱状地盤改良工事、GL~400cm の掘削。盛土と灰色系粘土層の堆積を確認した。
21042	長岡京跡右京五条四坊	今里南平尾 16-24	鉄骨 2 附建	5月 17・24 日	柱状地盤改良工事、GL~390 ~ 560cm の掘削。土層観察は不可。基礎、GL~20cm 、一部 GL~40cm の掘削。盛土のみを確認。
21043	長岡京跡右京六条四坊 下海印寺遺跡	奥海印寺岡本 8-2 の一部 (10号地)	木造 2 附建	5月 17 日	GL~20cm の掘削。盛土のみを確認。
21044	長岡京跡右京五条二坊	長岡一丁目 309-56	木造 2 附建	5月 18 日	GL~25 ~ 40cm の掘削。盛土のみを確認。
21045	土山遺跡	金ヶ原御所ノ内 1-10	木造 2 附建	5月 18 日	GL~60cm の掘削。盛土のみを確認。
21046	長岡京跡右京六条四坊 下海印寺遺跡	奥海印寺岡本 8-2 の一部 (9号地)	木造 2 附建	5月 19 日	GL~20cm の掘削。盛土のみを確認。
21047	長岡京跡右京四条二坊	野添一丁目 20-30	木造 2 附建	5月 20 日	GL~40cm の掘削。盛土のみを確認。
21048	長岡京跡右京六条二坊 開田遺跡 開田古墳群	開田三丁目 111-2	鉄骨 1 附建	5月 21 日	基礎コンクリート流入済み。土層確認は不可。
21049	長岡京跡右京五条三坊	天神五丁目 102-13	木造 2 附建	5月 24 日	GL~25cm の掘削。盛土のみを確認。
21050	長岡京跡左京六条一坊 苦闘遺跡	神足四ノ坪 12-30	木造 2 附建	5月 24 日	GL~50cm の掘削。盛土のみを確認。
21051	長岡京跡右京二条二坊 二条条間大路	南ノ町二丁目 22-11	木造 2 附建	5月 24 日	GL~30cm の掘削。盛土のみを確認。

調査 次数	遺跡名	所 在 地	工事内容	調査日	調査概要
21052	長岡京跡右京四条二坊 二条条間小路	野添一丁目 8-9	宅地造成	5月 24・27 日	柱状地盤改良工事、GL-275cm の掘削。土層 観察は不可。基礎、GL-20cm、一部 GL-70cm の掘削。盛土のみを確認。
21053	長岡京跡右京五条三坊	天神五丁目 102-9 (10号地)	木造2階建	5月 24日	GL-15cm の掘削。掘削底面で床土とみられ る黄灰色砂質土層の堆積を確認。
21054	長岡京跡右京六条四坊 下海印寺遺跡	奥海印寺岡本 8-2 の一部 (6号地)	木造2階建	5月 24日	GL-20cm の掘削。盛土のみを確認。
21055	長岡京跡右京六条四坊 下海印寺遺跡	奥海印寺岡本 8-2 の一部 (7号地)	木造2階建	5月 24日	GL-30cm の掘削。盛土のみを確認。
21056	長岡京跡右京五条三坊	天神五丁目 102-11	木造2階建	5月 25日	GL-20cm の掘削。盛土のみを確認。
21058	長岡京跡右京八条四坊 脇山遺跡	下海印寺西明寺 69-4	鉄骨2階建	5月 25日	GL-30～40cm の掘削。盛土のみを確認。
21059	長岡京跡右京四条二坊 西二坊坊間西小路 陶器町遺跡	長岡一丁目 3-1	宅地造成	5月 26日 6月 4日	GL-60cm の掘削。盛土のみを確認。既存建 物の基礎除去に伴う立会。 基礎、GL-30cm の掘削で盛土のみを確認。
21060	長岡京跡右京五条二坊 開田城／内道跡	長岡二丁目 405-2	木造3階建	6月 3日	GL-40cm の掘削。盛土のみを確認。
21061	長岡京跡右京六条四坊 下海印寺遺跡	奥海印寺岡本 8-2 の一部 (5号地)	木造2階建	6月 7日	GL-20cm の掘削。盛土のみを確認。
21062	長岡京跡右京四条三坊 今里遺跡	今里五丁目 115-9	木造2階建	6月 8日	GL-30cm の掘削。盛土のみを確認。
21063	長岡京跡右京三条一坊	柴の里 10-217	鉄骨2階建	6月 9日	GL-60cm の掘削。盛土のみを確認。
21064	長岡京跡右京四条三坊 四条大路 陶器町遺跡	長岡三丁目 2-68	木造2階建	6月 11日	柱状地盤改良工事済。GL-80cm の掘削。掘削 底面で床土を確認。
21065	長岡京跡右京九条七坊 衛道跡	測子二丁目 25-16	木造3階建	6月 11・15 日	柱状地盤改良工事、GL-400cm の掘削。GL- 80cm まで盛土。下層の土層観察は不可。 基礎、GL-30cm の掘削。盛土のみを確認。
21066	長岡京跡右京六条四坊	奥海印寺太鼓山 46-7	木造2階建	6月 14日	GL-50cm、一部 GL-70cm の掘削。GL-40 cm で淡黄赤色粘土層の地山を確認。
21067	長岡京跡右京二条三坊 二条大路 井ノ内遺跡	井ノ内南内堀 28-10	木造2階建	6月 14日	本文中に内容を掲載。
21068	長岡京跡右京六条二坊 六条大路 開田遺跡	開田四丁目 25-24	木造3階建	6月 15日	GL-35cm の掘削。盛土のみを確認。
21069	長岡京跡右京六条一坊 六条条間北小路 神足道跡 開田古墳群 勝能寺城跡（近世）	神足一丁目 215	木造2階建	6月 17日	GL-40cm、一部 GL-50cm の掘削。表土下、 暗茶褐色粘土層の旧盛土、茶褐色粘土層 の整地土を確認。一部 喷塗などの乱層が見ら れた。
21070	長岡京跡開連遺跡 弁天芝遺跡	栗生北開 20-5、20-6 (14号地)	木造2階建	6月 17日	柱状地盤改良工事済。GL-20cm の掘削。盛土 のみを確認。
21071	長岡京跡開連遺跡 弁天芝遺跡	栗生北開 20-31 (3号地)	木造2階建	6月 17日	柱状地盤改良工事済。GL-35cm の掘削。盛土 のみを確認。
21072	長岡京跡右京三条四坊 三条大路 今里遺跡	今里彦林 20-3	木造2階建	6月 22日	GL-25cm、一部 GL-70cm の掘削。GL-10 cm 淡黄白色砂大阪層群の地山を確認。
21073	長岡京跡右京五条四坊 東代古墳群	天神三丁目 210-51 の一部	木造2階建	6月 23日	GL-20cm まで掘削。西半分は丘陵地山の赤 褐色粘土層の地山。東半分は黄褐色粘土層 の旧盛土が確認できた。
21075	長岡京跡右京五条四坊 谷田瓦窯跡	奥海印寺北開 24-1	木造2階建	6月 25日	GL-20cm の掘削。盛土のみを確認。

調査 次数	遺跡名	所在地	工事内容	調査日	調査概要
21076	長岡京跡右京八条一坊 南栗ヶ坂遺跡	久見二丁目 802-1, 807-2	木造3階建	6月25日	GL~45cmの掘削。盛土のみを確認。
21077	長岡京跡右京三条四坊 三条大路 今里遺跡	今里彦林 13-16	木造2階建	6月28日	GL~20cm、一部 GL~50cmの掘削。盛土のみを確認。
21078	長岡京跡右京四条三坊 今里遺跡 乙調寺	今里三丁目 3-38	木造2階建	6月28日	GL~15cm、一部 GL~120cmの掘削。GL~90cmで淡赤黄色砂礫層の地山を確認。
21079	長岡京跡右京八条四坊 西四坊大路	下海印寺西明寺 31-11 他	木造2階建	6月28日	GL~30cm、一部 GL~50cmの掘削。盛土のみを確認。
21080	長岡京跡右京二条三坊 井ノ内南内堀 51-3	木造2階建	6月30日		柱状地盤改良工事済。GL~15cm掘削。暗茶褐色粘質土の近現代遺物包含層がみられた。
21081	長岡京跡右京六条一坊 西一坊大路 開田遺跡 開田古墳群	開田二丁目 34、34-2、 34-8、34-9、32-2	鉄骨1階建	6月30日	現グランド部分の掘削。GL~120cmの基礎用の面削り。グランド砂およびその基礎土直下、GL~35~85cmで暗茶褐色土の腐植土。GL~85cmで山ズリ等の整地土層であった。
21082	長岡京跡左京六条二坊 雲宮遺跡	神足落述 10	鉄骨1階建	7月5日	GL~120cmの掘削。盛土のみを確認。
21083	長岡京跡右京三条三坊 今里遺跡	今里五丁目 310-7	木造2階建	7月6日	GL~50cmの掘削。GL~30~50cmで丘陵系地山の黄砂色粘質土層を確認。
21084	長岡京跡右京四条二坊	野添一丁目 7-117	木造3階建	7月6日	GL~50cmの掘削。盛土のみを確認。
21085	長岡京跡右京八条一坊 勝應寺城跡（中世）	勝竜寺 220-16	木造2階建	7月6日	GL~60cmの掘削。GL~50cmで、砂礫を含む暗灰色粘土層の堆積を確認。
21086	長岡京跡右京四条一坊 四条通小路	一文橋二丁目 13-126	木造2階建	7月7日	GL~50cmの掘削。GL~30~50cm以下は河川堆積と思われる砂混じりの黄灰色粘土層であった。
21087	長岡京跡右京八条二坊 友岡遺跡	友岡三丁目 5-2	木造2階建	7月7日	GL~25cmの掘削。盛土のみを確認。
21088	長岡京跡右京二条二坊 二条通小路	瀬ノ町二丁目 34-6	木造2階建	7月8日	GL~10cmの掘削。盛土のみを確認。
21089	長岡京跡左京六条一坊 雲宮遺跡	神足要害宮 4-4	木造2階建	7月8日	鋼管杭工法による柱状地盤改良工事。GL~850~950cmまで掘削。土層観察は不可。
21090	長岡京跡右京八条三坊 友岡遺跡	友岡三丁目 125-1、125-13の各一部（2号地）	木造2階建	7月9日	GL~20cm、一部 GL~40cmの掘削。盛土のみを確認。
21091	長岡京跡右京八条三坊 友岡遺跡	友岡三丁目 125-1、125-13の各一部（3号地）	木造2階建	7月9日	大半が砾石で嵩上げ、一部 GL~20cmの掘削。盛土のみを確認。
21092	長岡京跡左京六条二坊 雲宮遺跡	神足上八ノ坪 8 他 7 番	鉄骨3階建	7月9・12・ 14・19・ 21日	GL~180~190cmの掘削。盛土直下の掘削底面 GL~160cmで暗灰色粘土層を確認。盛土直下であるため、旧耕作土か河原などの堆積によるものかは不明。
21093	長岡京跡右京六条三坊 開田城／内遺跡	天神一丁目 8-19	木造2階建	7月12日	敷地東辺部を表層地盤改良工事。GL~140cmの掘削。GL~100cmで暗茶色粘土層の堆積を確認し、沼状の堆植物である可能性が考えられた。
21094	長岡京跡右京六条二坊 開田遺跡	開田四丁目 708-28 の一部	木造2階建	7月12日	柱状地盤改良工事。GL~190cmの掘削。土層観察は不可。
21095	長岡京跡右京六条四坊	天神二丁目 101-86 (3号地)	木造2階建	7月13日	鋼管杭工法による柱状地盤改良工事。GL~30cmの掘削。盛土のみを確認。
21096	長岡京跡右京七条四坊 (2号地)	下海印寺西明寺 16-11 他	木造2階建	7月19日	GL~20cmの掘削。盛土のみを確認。
21097	長岡京跡右京三条三坊 三条大路 今里遺跡	今里五丁目 115-6	木造2階建	7月19日	埋設管の工事が実施されていた。建物基礎は GL~20cm、埋設管は GL~40cmの掘削。盛土のみを確認。

調査 次数	遺跡名	所在地	工事内容	調査日	調査概要
21098	長岡京跡右京五条二坊	長岡二丁目 6-14	木造2階建	7月19日	GL~25cmの掘削。盛土のみを確認。
21099	長岡京跡右京八条三坊 友岡道跡	友岡三丁目 125-1, 125-13の各一部（1号地）	木造2階建	7月19日	GL~15cmの掘削。盛土のみを確認。
21100	長岡京跡右京八条三坊 友岡道跡	友岡三丁目 125-1, 125-13の各一部（4号地）	木造2階建	7月19日	GL~10cmの掘削。盛土のみを確認。
21101	長岡京跡右京八条四坊	下海印寺西明寺 10-33 (No.22)	木造2階建	7月20・28 日	柱状地盤改良工事、GL~300~375cmの掘削。 橙褐色土層、暗灰色土層の堆積を確認。いずれも造成土と考えられる。 基礎、GL~20cmの掘削。盛土のみを確認。
21102	長岡京跡右京五条三坊	天神五丁目 102-6 (13号地)	木造2階建	7月20日	GL~20cmの掘削。盛土のみを確認。
21103	長岡京跡右京五条三坊	天神五丁目 102-15 (4号地)	木造3階建	7月20日	GL~20cmの掘削。盛土のみを確認。
21104	長岡京跡右京七条四坊 西四坊大路 下海印寺道跡	下海印寺方丸 41-2, 25 の一部	木造2階建	7月21日	GL~25~35cm程の掘削。盛土のみを確認。
21105	長岡京跡右京五条二坊 開田城ノ内道跡	長岡二丁目 434-5	鉄骨2階建	7月21日	敷地内南西角に1.5×8m程の掘削。GL~90cm の掘削。盛土のみを確認。
21106	長岡京跡右京四条二坊 西二坊坊間西小路	長岡一丁目 3-1 の一部	鉄骨2階建	7月21日	建設基礎部は掘削を行わず、現表面から砂石 で25cm程度嵩上げ。一部深いところでGL~ 5cm弱程の掘削。盛土のみを確認。
21107	長岡京跡右京七条三坊	花山二丁目 13-1	木造2階建	7月21日	GL~10~30cmの掘削。盛土のみを確認。
21108	長岡京跡右京八条一坊 八条大路 南栗ヶ塚道跡	久貝二丁目 401-1, 401-3	宅地造成	7月26日	水道管の引き込み工事。GL~170cmの掘削。 GL~90cmで暗褐色系の土層確認。
21109	長岡京跡右京三条四坊 井ノ内道跡	井ノ内横ヶ塚 19	携帯電話基 地局設置	7月27日	GL~300cmまでの掘削。GL~80cmで淡黄灰 色粘質土層の地山を確認。ドリル掘削部分の 土層観察は不可。
21110	長岡京跡右京七条四坊 西四坊大路 下海印寺道跡	下海印寺西明寺 16-12 (1号地)	木造2階建	7月29日	柱状地盤改良工事済。GL~30cmの掘削。 盛土のみを確認。
21111	土山遺跡	金ヶ原御所ノ内 1-6	木造2階建	7月30日	GL~20~30cmの掘削。盛土のみを確認。
21112	長岡京跡右京四条二坊 陶器町道跡	長岡三丁目 25-1 の一部、 25-50	木造2階建	7月30日	GL~20cmの掘削。盛土のみを確認。
21113	長岡京跡右京八条三坊 西三坊坊間西小路	下海印寺下内田 5-1	鉄骨3階建	7月30日 8月2~5日	GL~60cmの掘削。GL~50cmで盛土を確認。 対象地は、調査報告55番R975調査の2トレー ンチが設定された水田にある。耐候的には、 調査後の開発時の盛土と推察される。敷地東 部、GL~80cmの掘削。GL~30cmで造成盛 土であることを確認。敷地中央部、GL~60~ 70cmの掘削。GL~40~50cmまでが旧耕作 土、その下が造成盛土であることを確認。敷 地西部、GL~80cmの掘削。旧耕作土の直下 に盛土を確認。
21114	長岡京跡右京七条一坊 神足道跡 勝龍寺城跡（中世）	勝竜寺 24（2号棟）	木造2階建	8月3・4日 9月3日	GL~15cmまでの掘削。盛土のみを確認。西 側境界ブロック解基礎工事、進入路西側幅1 m長さ10m深さ~90cm程度掘削。GL~50cm で暗茶褐色系ベースとする5~10cm 大の礫 を包含する盛土。敷地西辺のブロック解工事、 GL~50cm~70cmの掘削。敷地北辺の掘削 前面まで盛土。南北では、GL~30cmで黄色 土の堆積を確認。
21115	長岡京跡右京五条三坊	八条が丘一丁目 6-3	鉄骨3階建	8月4日	現地表面に40~60cm程の山ズリ等の盛土 を行ったのち、GL~60cm程の掘削。盛土の みを確認。

調査 次数	遺跡名	所在地	工事内容	調査日	調査概要
21116	長岡京跡右京四条二坊西二坊坊間西小路今里北ノ町遺跡	柴の里1-14	木造3階建	8月4日	柱状地盤改良工事、GL~420cmまでの掘削。GL~10cmで暗灰色系粘土層を確認。
21118	長岡京跡左京七条一坊雲宮遺跡	神足太田21-23	木造3階建	8月4日	GL~50cmの掘削盛土のみを確認。
21119	長岡京跡右京七条三坊	天神二丁目136-4(1号地)	鉄骨2階建	8月5日	GL~30cm、一部GL~90cmの掘削。盛土のみを確認。
21120	長岡京跡右京二条二坊今里遺跡	井ノ内下田山11-10	木造2階建	8月5日	鋼管杭工法による柱状地盤改良工事。GL~20cmの掘削。盛土のみを確認。
21121	長岡京跡右京六条四坊	天神二丁目101-87(2号地)	木造2階建	8月10日	GL~20cm、一部盛土の厚い東端部のみGL~50cmの掘削。盛土のみを確認。
21122	長岡京跡右京七条四坊西四坊大路下海印寺遺跡	下海印寺西明寺16-10他(3号地)	木造2階建	8月12・17日	柱状地盤改良工事、GL~300cmまでの掘削。GL~50cmで、黄褐色粘質土層、そして、灰色粘質土層であった。谷沢の堆積土と思われる。基礎、GL~20cmの掘削。盛土のみを確認。
21123	長岡京跡左京七条二坊	神足七ノ坪10	木造2階建	8月12日	倉庫内床面~70cmまでの掘削。倉庫南側に1×1m四方のグリッド5ヶ所。層厚20cmのコンクリート床の直下で、暗茶褐色系の改良土の盛土を確認。
21125	長岡京跡開闢遺跡	栗生北開18-6(7号地)	木造2階建	8月18日	GL~15cmの掘削。盛土のみを確認。
21127	長岡京跡右京五条二坊開田城ノ内遺跡	長岡二丁目6-46	木造2階建	8月23日	GL~30cmの掘削。盛土のみを確認。
21128	長岡京跡右京四条二坊	長岡一丁目41-86	木造2階建	8月23日	GL~20cmまでの掘削。盛土のみを確認。
21129	長岡京跡右京三条三坊三条大道今里遺跡	今里五丁目115-3	木造2階建	8月24日	GL~30cmの掘削。盛土のみを確認。
21130	長岡京跡右京四条二坊西二坊坊間西小路	長岡一丁目3-1の一部	木造2階建	8月24日	GL~10cmの掘削。盛土のみを確認。
21132	長岡京跡右京四条二坊今里北ノ町遺跡	野添二丁目134-22	鉄骨2階建	8月26日	GL~50cmの掘削。盛土のみを確認。
21133	長岡京跡右京六条一坊神足道跡開田古墳群勝龍寺城跡(近世)	神足一丁目202-6、202-7	木造3階建	8月26日	GL~40cmまでの掘削。盛土下の掘削底面で橙褐色砂礫層(段丘難層)を確認。
21134	長岡京跡右京五条三坊	天神五丁目102-10	木造2階建	8月26日	基礎コンクリート流入済み。土層確認は不可。
21135	長岡京跡右京七条四坊西四坊大路	下海印寺西山田16-11(17号地)	木造2階建	8月27日	GL~30cmの掘削。盛土のみを確認。
21136	長岡京跡右京八条四坊駿山遺跡	泉が丘5-9	鉄骨2階建	8月27・30日	鋼管杭工法による柱状地盤改良工事。GL~60cmまでの掘削。盛土のみを確認。基礎、GL~40cmの掘削。盛土のみを確認。
21137	長岡京跡開闢遺跡奥海印寺遺跡	奥海印寺野辺田17-1	上水管引込	8月30日	GL~120cmの掘削。大半は既設管などで搅乱を受けているが、道路面西端で耕作土を確認。
21138	長岡京跡右京四条二坊西二坊坊間西小路	長岡一丁目3-1の一部	木造2階建	8月30日	GL~40cmの掘削。盛土のみを確認。
21139	長岡京跡開闢遺跡弁天芝遺跡	栗生北開14-1(18号地)	木造2階建	8月31日	GL~25cm、一部GL~45cmの掘削。GL~35cmで黄褐色粘質土層の地山を確認。
21141	長岡京跡右京二条三坊井ノ内遺跡	井ノ内東ノ口14-5	木造2階建	9月1日	GL~40cmの掘削。盛土のみを確認。旧建築物建築時の整地土。
21142	長岡京跡右京二条二坊今里遺跡	南ノ町二丁目44-6-1(1号地)	木造2階建	9月1日	GL~30cmの掘削。盛土のみを確認。砂礫・灰色砂質土層を含む黄褐色粘質土の整地土。

調査 次数	遺跡名	所 在 地	工事内容	調 査 日	調 査 概要
21143	長岡京跡右京八条一坊 南栗ヶ塚遺跡	久貝二丁目 316-19 (A号地)	木造2階建	9月1日	GL~40cmの掘削。盛土のみを確認。
21144	長岡京跡右京六条三坊 開田城ノ内道路	天神一丁目 10-31	木造2階建	9月1日	GL~40cm掘削。一部 GL~50cmの掘削。盛土のみを確認。
21145	長岡京跡右京二条二坊 今里遺跡	滝ノ町二丁目 44-6-2 (2号地)	木造2階建	9月1日	GL~20cmの掘削。盛土のみを確認。
21146	長岡京跡右京六条二坊 開田道路	開田三丁目 101-9	携帯電話基地局設置	9月3日	GL~120cmの掘削。掘削坑が狭いため土層確認は不可。
21147	長岡京跡右京四条一坊 四条東間小路	一文橋二丁目 18-48	木造2階建	9月6日	GL~50cmの掘削。盛土のみを確認。
21148	長岡京跡右京七条一坊 神足遺跡 勝龍寺城跡（中世）	勝竜寺 24（1号地）	木造2階建	9月6日	GL~30cm、一部 GL~50cmの掘削。盛土のみを確認。
21149	長岡京跡右京八条四坊	泉が丘 12-2	鉄骨2階建	9月6日	GL~30cmの掘削。盛土のみを確認。
21150	長岡京跡右京八条一坊 南栗ヶ塚遺跡	久貝二丁目 316-22 (D号地)	木造2階建	9月6日	GL~50cmの掘削。盛土直下の掘削底面で暗褐色粘土層の地山を検出した。
21151	長岡京跡右京五条二坊 西二坊大路 開田城ノ内道路	長岡二丁目 406-19、406-22	木造2階建	9月7日	基礎コンクリート流入済み。土層確認は不可。
21152	長岡京跡右京六条一坊 神足遺跡 開田古墳群 勝龍寺城跡（近世）	神足一丁目 103-3、103-1	木造2階建	9月8日	GL~30cmの掘削。盛土のみを確認。
21153	長岡京跡右京五条四坊 東代古墳群	今里南平尾 16-34	鉄骨2階建	9月9日	柱状地盤改良工事済み。GL~30cmの掘削。盛土のみを確認。
21155	長岡京跡右京三条三坊 三条大路	今里五丁目 115-5 (2号地)	木造2階建	9月13日	GL~20cm、一部 GL~30cmの掘削。盛土のみを確認。
21156	長岡京跡右京二条二坊 今里遺跡	井ノ内下印田 11-10	木造2階建	9月13日	柱状地盤改良工事済み。GL~30cm、一部 GL~50cmの掘削。盛土のみを確認。
21157	長岡京跡左京七条一坊 七条大路	城の里 6-8	木造2階建	9月13日	GL~50cm、一部 GL~70cmの掘削。盛土のみを確認。
21158	長岡京跡右京六条四坊 四坊条間小路 下海印寺遺跡	奥海印寺岡本 8-2 の一部 (2号地)	木造2階建	9月13日	GL~30cmの掘削。盛土のみを確認。
21159	長岡京跡右京六条三坊 開田城ノ内道路	天神一丁目 30-1	携帯電話基地局設置	9月14日	GL~300cmの掘削。GL~30cmで暗褐色粘土層、GL~65cmで黄褐色粘土質の地山を確認。
21160	長岡京跡右京四条一坊	一文橋二丁目 39-164	木造3階建	9月15日	鋼管杭工法による柱状地盤改良工事済み。GL~30cmの掘削。盛土のみを確認。
21162	長岡京跡左京六条一坊 東一坊坊間大路 雲宮遺跡	神足森本 15-20 (C号地)	木造2階建	9月15日	GL~35cmの掘削。盛土のみを確認。
21163	長岡京跡右京八条一坊	勝竜寺 1110-5	木造2階建	9月15日	GL~15cmの掘削。盛土のみを確認。
21164	長岡京跡右京八条一坊 南栗ヶ塚遺跡	久貝二丁目 316-24 (F号地)	木造2階建	9月15日	GL~25cm、一部 GL~30cmの掘削。GL~15cmで茶褐色粘土質の地山土層を確認。
21165	長岡京跡岡間遺跡 弁天芝遺跡	粟生北原 18-3 (5号地)	木造2階建	9月16日	GL~20cm、一部 GL~50cmの掘削。盛土のみを確認。
21166	長岡京跡右京六条四坊 谷田瓦窯群	天神三丁目 201 他 (8号地)	木造2階建	9月16日	柱状地盤改良工事済み。GL~30cmの掘削。盛土のみを確認。
21167	長岡京跡右京四条三坊 今里遺跡 乙訓寺	今里三丁目 302-3 の一部	木造3階建	9月17日	鋼管杭工法による柱状地盤改良工事済み。GL~35cmまで土層観察可。GL~5cmまではコンクリート碎石。GL~5cm以下は黄茶褐色土層が見られる。

調査 次数	遺跡名	所 在 地	工事内容	調 査 日	調 査 概 要
21168	長岡京跡右京四条三坊	野添一丁目 7-58	木造2階建	9月17日	GL~30cm の掘削。地山ともみられる黄橙色粘土層が部分的にみられるが、基本的には盛土のみを確認。
21169	長岡京跡右京六条一坊 神足遺跡 勝龍寺城跡(近世)	神足二丁目 4-1	その他	9月21日	GL~90cm の掘削。盛土のみを確認。
21170	長岡京跡右京八条三坊 友間遺跡	下海印寺伊賀寺 48-8 の一部、友間西組 14-8	木造2階建	9月21日	GL~30cm の掘削。盛土のみを確認。
21171	長岡京跡右京七条三坊 七条条間南小路 友間遺跡	花山三丁目 45	木造2階建	9月21日	GL~40cm、一部 GL~80cm の掘削。盛土のみを確認。
21173	長岡京跡開運遺跡 下海印寺遺跡	奥海印寺森ノ下 21-12	木造2階建	9月21日	GL~20cm の掘削。盛土のみを確認。
21174	長岡京跡右京二条三坊 井ノ内遺跡 上里遺跡	井ノ内南内畠 42 の一部、43、44 合併の一部	木造2階建	9月21日	GL~40cm の掘削。盛土のみを確認。
21175	長岡京跡右京七条四坊 下海印寺遺跡	梅が丘二丁目 21	木造2階建	9月22日	GL~20cm、一部 GL~40cm の掘削。赤褐色砂質土層の盛土のみを確認。
21176	長岡京跡右京四条一坊	一文橋二丁目 13-124	木造2階建	9月28日 10月 7・11日	鋼管杭工法による柱状地盤改良工事、GL~300cm までの打ち込み、土層観察は不可。基礎、GL~120cm の掘削。盛土のみを確認。
21177	長岡京跡右京八条三坊 伊賀寺遺跡	下海印寺下内田 15、16、17-1、17-2、17-3	鉄骨2階建	9月29日	柱状地盤改良工事、GL~200cm の掘削。南西側に 220×120cm 程のグリット振りがあり、南壁 100cm 程土層観察ができる。GL~60cm までは表土の黄橙色粘土層の今回開発盛土、GL~60cm 以下が昭和地形の整地土と思われる。
21178	長岡京跡左京六条一坊 雲宮遺跡	神足四ノ坪 15-17、12-20	木造2階建	9月29日	GL~40cm の掘削。盛土のみを確認。
21179	奥海印寺遺跡	奥海印寺北垣外 15 の一部	木造3階建	9月29日	北側道路側 GL~430cm の掘削。南側最深 GL~180cm の掘削。丘陵系地山を確認。南端は、GL~30cm で黄橙色粘土層の地山を確認。
21180	長岡京跡右京六条四坊 谷田瓦窯跡	天神三丁目 201 他 (7号地)	木造2階建	10月1日	柱状地盤改良工事済み。GL~35cm の掘削。盛土のみを確認。
21181	長岡京跡右京五条四坊	今里南平尾 16-17、16-29	鉄骨2階建	10月1・6日	柱状地盤改良工事、GL~450cm の掘削。土層観察は不可。基礎、GL~25cm の掘削。盛土のみを確認。
21182	長岡京跡右京八条四坊	下海印寺西明寺 10-44 No.37	木造2階建	10月1・5日	柱状地盤改良工事、GL~225cm の掘削。土層観察は不可。基礎、GL~30cm の掘削。盛土のみを確認。
21183	長岡京跡右京五条三坊 西三坊大路	天神五丁目 21-7	木造3階建	10月4日	GL~40cm、一部 GL~70cm までの掘削。盛土のみを確認。
21184	長岡京跡右京五条三坊	天神五丁目 102-4 (15号地)	木造2階建	10月4日	GL~30cm の掘削。盛土のみを確認。
21185	長岡京跡右京五条三坊	天神五丁目 102-14 (5号地)	木造2階建	10月5日	柱状地盤改良工事済み。GL~15cm の掘削。盛土のみを確認。
21186	長岡京跡右京八条四坊 西四坊間西小路	下海印寺西明寺 10-45 No.38	木造2階建	10月5日	柱状地盤改良工事済み。GL~25cm の掘削。盛土のみを確認。
21187	長岡京跡右京七条二坊 開田遺跡	竹の台他地内	鋼構工事	10月7・8・13・19・20・22・26日 11月17日	GL~45 ~ 60cm、幅 100cm、一部配管部分 GL~80cm の掘削。盛土のみを確認。北側では、すべて既設管の埋設土であったが、南壁では倒溝の下 GL~35cm で、灰色土や茶褐色難混じりの盛土を確認。北側は、現状の路肩ブロックを除去して、その下にある暗渠倒溝上に新たな路肩ブロックを設置。削削なし。
21188	長岡京跡右京三条三坊 今里遺跡	今里五丁目 121-21	木造2階建	10月8日	GL~30 ~ 40cm の掘削。盛土のみを確認。

調査 次数	遺跡名	所 在 地	工事内容	調 査 日	調 査 概要
21189	長岡京跡右京七条四坊	下海印寺西明寺 16-13 (20号地)	木造2階建	10月8日	GL~30cmの掘削。盛土の範囲内に収まる。
21190	長岡京跡右京五条四坊	今里南平尾 16-3, 16-18	鉄骨2階建	10月8日	柱状地盤改良工事済み。GL~25cm、一部 GL~30cmの掘削。盛土のみを確認。
21191	長岡京跡右京五条四坊 東代遺跡	天神三丁目 40-13, 35- 19, 119-6	木造2階建	10月14・25 日	柱状地盤改良工事。GL~350cmまでの掘削。 GL~130cmまで土層観察が可能。GL~50cm まで盛土、その下に灰色系の土層堆積を確認 したが詳細は不明。基礎、盛土のみを確認。
21192	長岡京跡圓連道跡	栗生北開 16-9, 16-13, 16-20 (4号地)	木造2階建	10月14日	GL~20cm、一部 GL~50cmの掘削。盛土のみ を確認。
21193	長岡京跡右京三坊二坊	柴の里 10-123	木造2階建	10月14日	GL~30cmの掘削。盛土のみを確認。
21194	長岡京跡右京七条四坊 西四坊大路	下海印寺西山田 16-13 (15号地)	木造2階建	10月14・18 日	柱状地盤改良工事。GL~200~350cmの掘削。 GL~50cmまでは盛土であった。 基礎、GL~20cmの掘削。盛土のみを確認。
21195	長岡京跡右京二条三坊 上里遺跡	井ノ内上田山 7番地 21	木造2階建	10月14日	GL~30cm、一部 GL~50cmの掘削。盛土のみ を確認。
21196	長岡京跡右京九条二坊 宿禰道跡 宮脇道跡 松田道跡	調子三丁目 33-1	休憩室	10月18日	表層地盤改良工事。部分的な掘削。GL~170 cmまでの掘削。GL~100cmで暗青灰色粘土 層、その下に緑灰色粘土層の堆積を確認。
21197	長岡京跡左京八条一坊 東一坊坊間大路	勝竜寺西原田 16-30	鉄骨2階建	10月19・ 20・21日	GL~120~150cmの掘削。盛土のみを確認。
21198	長岡京跡右京五条二坊 五条大路 開田遺跡	開田一丁目 108 の一部	木造2階建	10月20日	GL~20cmの掘削。盛土のみを確認。
21199	長岡京跡右京四条二坊 陶器町道跡	長岡三丁目 25-87 (B号地)	木造2階建	10月21日	GL~40cmの掘削。盛土のみを確認。
21200	長岡京跡右京四条二坊 陶器町道跡	長岡三丁目 25-22 (A号地)	木造2階建	10月21日	GL~40cmの掘削。盛土のみを確認。
21201	長岡京跡右京八条四坊 八条間北小路	泉が丘 23-3	木造2階建	10月25日	GL~30cm、一部 GL~60cmの掘削。盛土のみ を確認。
21202	長岡京跡右京二条二坊	西の京 9-19	木造2階建	10月26・28 日	柱状地盤改良工事、GL~250cmの掘削。盛土 直下に暗青灰色系粘土層を確認。深度などの 詳細は不明。 基礎、GL~30cmの掘削。盛土のみを確認。
21203	長岡京跡左京七条一坊 七条大路	城の里 6-8 の一部	鉄骨2階建	10月26日	GL~30cm、一部 GL~80cmの掘削。盛土の みを確認。
21205	長岡京跡右京四条三坊 四条大路 陶器町道跡	長岡三丁目 104-18	木造3階建	10月27日	GL~60cmの掘削。盛土のみを確認。
21206	長岡京跡右京八条一坊	勝竜寺巡り原 5-7	木造3階建	10月27日	柱状地盤改良工事、GL~600cmの掘削。土層 観察は不可。
21207	長岡京跡左京七条一坊 菅宮道跡	神足太田 20-1	鉄骨2階建	10月27日	柱状地盤改良工事、土層観察は不可。西側の田 畠より 50~60cm 程高いことから盛土の可能 性が高い。
21208	長岡京跡右京四条三坊 陶器町道跡	長岡三丁目 115-17, 115- 33	木造2階建	10月28日	GL~30cmの掘削。GL~20cmで暗茶褐色粘 土の堆積土を確認。
21209	長岡京跡右京九条一坊 西一坊坊間西小路 久保古墳群	久貝三丁目 130-38 (C号地)	木造2階建	10月28日	GL~35cmの掘削。GL~20cmで暗赤褐色粘 土層を確認。
21210	長岡京跡右京九条一坊 久保古墳群	久貝三丁目 130-42 (G号地)	木造2階建	10月29日	本文中に内容を掲載。

調査 次数	遺跡名	所在地	工事内容	調査日	調査概要
21211	長岡京跡右京六条四坊西四坊大路下海印寺遺跡	奥海印寺岡本7他(24号地)	木造2階建	11月1日	GL~20~30cmの掘削。盛土のみを確認。
21212	長岡京跡右京六条四坊下海印寺遺跡	奥海印寺岡本7他(23号地)	木造2階建	11月1日	GL~20~30cmの掘削。盛土のみを確認。
21213	長岡京跡右京五条四坊今里南平尾16-23		鉄骨2階建	11月1日	柱状地盤改良工事、GL~550cmの掘削。土層観察は不可。
21214	長岡京跡右京七条一坊	神足二丁目129-2、134-2、134-3、134-4、701-5、1505、1506	鉄骨2階建	11月2日	GL~40cm、一部 GL~60cmの掘削。盛土のみを確認。
21215	奥海印寺遺跡	奥海印寺北垣外10、11-1、11-2、12-3、13-2	鉄骨3階建	11月4日	敷地内の整地工事。敷地内北西隅では、GL~35cm掘削。床土直下で、土師質瓦片を含む1cm程度のマンガン・鉄分を含む灰色砂質土の包含層を確認。
21216	長岡京跡開道跡奥海印寺遺跡	奥海印寺野辺田17-1、17-4の一部(C号地)	木造2階建	11月5日	GL~10cm、一部 GL~20cmの掘削。盛土のみを確認。
21217	長岡京跡左京六条一坊雲宮遺跡	神足四ノ坪15-15、12-11	木造3階建	11月5日	GL~50cm、一部 GL~70cmの掘削。盛土のみを確認。
21219	長岡京跡右京四条二坊陶器町遺跡	長岡三丁目7-2の一部	木造2階建	11月8・11日	柱状地盤改良工事、GL~150cmの掘削。表土の下に暗茶褐色の土層の堆積を確認。基礎、GL~30cmまでの掘削。盛土のみを確認。
21220	長岡京跡左京六条一坊雲宮遺跡	神足堂ヶ内8-1の一部(3・4号地)	木造2階建	11月9日	柱状地盤改良工事済み、GL~15cm、一部35cmの掘削。GL~15cmで地山と思われる黄灰褐色粘土層が確認。一部不定形ながら暗茶褐色粘土部分も見られたが、道幅との判断できなかった。
21221	長岡京跡右京三条三坊今里遺跡井ノ内遺跡	井ノ内南内畠28-47	木造2階建	11月10・15日	柱状地盤改良工事、GL~200cmの掘削。GL~20cm付近では盛土。その直下で暗茶褐色砂礫土層と茶褐色粘土層を確認。基礎、GL~50cmの掘削。盛土のみを確認。
21222	土山遺跡	金ヶ原御所ノ内1-5	木造2階建	11月10日	基礎、GL~50cm、一部 GL~90cmの掘削。盛土のみを確認。
21223	長岡京跡開道跡奥海印寺遺跡	奥海印寺野辺田17-5(A号地)	木造2階建	11月11日	GL~10cm、一部 GL~20cmの掘削。盛土のみを確認。
21224	長岡京跡右京三条二坊今里遺跡	桑の里10-84	木造2階建	11月11日	GL~25cm、一部 GL~45cmの掘削。盛土のみを確認。
21225	長岡京跡左京六条一坊	神足堂ヶ内9の一部(13号地)	木造2階建	11月12日	柱状地盤改良工事済み。GL~25~35cmの掘削。盛土のみを確認。
21226	長岡京跡左京六条一坊	神足堂ヶ内8-1の一部(14号地)	木造2階建	11月12日	GL~35cmの掘削。盛土のみを確認。
21227	長岡京跡開道跡井天芝遺跡	栗生北畠18-7(8号地)	木造2階建	11月15日	柱状地盤改良工事済み。GL~20cmの掘削。盛土のみを確認。
21228	長岡京跡右京二条二坊今里遺跡	井ノ内下印田6-6	木造2階建	11月15日	鋼管杭工法による柱状地盤改良工事済み。GL~30cmの掘削。盛土のみを確認。
21230	長岡京跡右京六条四坊西四坊坊間小路	天神二丁目101-89(8号地)	木造2階建	11月15日	GL~30~40cmの掘削。GL~20cmで黄褐色砂礫層の地山を確認。
21232	長岡京跡左京六条一坊雲宮遺跡	神足堂ヶ内8-1の一部(1号地)	木造2階建	11月15日	柱状地盤改良工事済み。GL~20cmの掘削。盛土のみを確認。
21233	長岡京跡左京六条一坊雲宮遺跡	神足堂ヶ内8-1の一部(2号地)	木造2階建	11月16日	柱状地盤改良工事済み。GL~20cm、一部 GL~40cmの掘削。盛土のみを確認。
21234	長岡京跡右京九条一坊久保古墳群	久貝三丁目139-41(F号地)	木造2階建	11月16日	GL~40cmの掘削。GL~30cm暗茶褐色粘土層の堆積、GL~40cmで暗茶褐色粘土層の地山を確認。

調査 次数	遺跡名	所在地	工事内容	調査日	調査概要
21235	長岡京跡右京八条一坊 八条大路 南栗ヶ塚遺跡	久貝二丁目 401-1	木造2階建	11月17・25日	柱状地盤改良工事、GL-340cmの掘削。GL-25cmまでは方形土坑のため土層の観察が可能であった。GL-15cmで黄褐色粘質土層の地山。基礎、GL-30cmの掘削。盛土のみを確認。
21236	長岡京跡左京六条一坊 雲宮遺跡	神足堂ヶ内9の一部 (20号地)	木造2階建	11月18日	GL-25cm、一部 GL-40cmの掘削。GL-40cmで耕作土を確認。
21237	長岡京跡左京六条一坊 雲宮遺跡	神足堂ヶ内9の一部 (19号地)	木造2階建	11月18日	GL-25cm、一部 35cmの掘削。GL-20cmで暗茶褐色粘質土の旧耕作土を確認。
21239	長岡京跡右京七条三坊	天神二丁目 136-6 (3号地)	鉄骨2階建	11月19日	3x4.3m程の部分土壤改良工事、GL-160cmの掘削。GL-40cmまでは表土・整地土。GL-40～90cmが黄灰色砂礫土層の造成盛土。GL-90～150cmは竹根を含む暗灰白色砂礫土層の旧表土層の掘削。整地土。GL-150cm以下は黄灰色粘質土層。地山と思われる。
21240	長岡京跡右京七条三坊	天神二丁目 136-9 (6号地)	鉄骨2階建	11月19日	GL-35cm、一部 GL-80cmの掘削。盛土のみを確認。
21241	長岡京跡右京六条一坊 雲宮遺跡	神足堂ヶ内8-1の一部 (6号地)	木造2階建	11月24日	柱状地盤改良工事済み。GL-20cm、一部 GL-40cmの掘削。盛土のみを確認。
21242	長岡京跡右京六条一坊 雲宮遺跡	神足堂ヶ内9の一部 (17号地)	木造2階建	11月24日	柱状地盤改良工事済み。GL-20cmの掘削。盛土のみを確認。
21243	長岡京跡右京五条一坊	開田一丁目 28-83	木造2階建	11月25日	GL-10cm、一部 GL-30cmの掘削。暗茶褐色砂礫土層の盛土のみを確認。東隣と GL+80cm程高い。
21244	長岡京跡右京五条一坊	今里南平尾 16-35	鉄骨2階建	11月26日	柱状地盤改良工事済み。GL-30cmの掘削。盛土のみを確認。
21245	長岡京跡右京七条一坊 神足道跡 勝龍寺城跡(中世)	東神足二丁目 215-6, 215-7	鉄骨2階建	11月26日	R1251調査地。敷地内北東部分、柱状地盤改良工事済み。GL-10cmの掘削。盛土のみを確認。
21246	長岡京跡圓通寺遺跡 奥海印寺遺跡	奥海印寺野辺田 17-9 (E号地)	木造2階建	11月29日	GL-25cmの掘削。盛土のみを確認。
21247	長岡京跡左京六条一坊	神足堂ヶ内9の一部 (15号地)	木造2階建	11月29日	柱状地盤改良工事済み。GL-20～40cmの掘削。盛土のみを確認。
21248	長岡京跡左京六条一坊	神足堂ヶ内9の一部 (16号地)	木造2階建	11月29日	柱状地盤改良工事済み。GL-20～40cmの掘削。盛土のみを確認。
21249	長岡京跡圓通寺遺跡 奥海印寺遺跡	奥海印寺野辺田 17-6 (B号地)	木造2階建	11月29日	GL-10cmの掘削。盛土のみを確認。
21250	長岡京跡右京九条二坊 宿道路	測三丁目 1-1、114-1、 201-2、301	鉄骨1階建	11月30日	GL-30cmの掘削。盛土のみを確認。
21251	長岡京跡右京四条三坊 今里遺跡	今里五丁目 115-8 (6号地)	木造2階建	11月30日	GL-20cm、一部 GL-45cmと GL-60cmの掘削。GL-10cmで、地山層の灰色粘土ブロックが混じる黃灰色粘土層が一面に広がる。



付表-4 報告書抄録

ふりがな	ながおかきょうしぶんかざいちょうさはうこくしょ
書名	長岡市文化財調査報告書
調書名	長岡市文化財調査報告書
シリーズ名	第78冊
編著者名	原 秀樹、福家 恵、山本輝雄、須向敏一
編集機関	公益財團法人 長岡市埋蔵文化財センター
所在地	〒617-0853 京都府長岡市奥海印寺東条10番地の1

所取遺跡名	所在地	コード 市町村	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
こうとういせき 神足道路 ちゅうせいりゆうじきゆうじき 中世勝龍寺城跡 ながおかきょうしうじしき 長岡京跡 (右京七条一坊六町)	ながおかきょうしうじしき 長岡市東神足 二丁目223	83	34°55'08"	135°42'63"	20210524 ↓ 20210611	87m <sup>2</sup>	範囲確認
		841					
		107					
こうとういせき 神足道路 ちゅうせいりゆうじきゆうじき 中世勝龍寺城跡 ながおかきょうしうじしき 長岡京跡 (右京七条一坊十一町)	ながおかきょうしうじしき 長岡市東神足 二丁目215番6、 215番7	93	34°55'08"	135°42'63"	20210929 ↓ 20210930	9 m <sup>2</sup>	範囲確認
		841					
		107					
いまざといせき 今里遺跡 いまざといじき 乙訓寺 おとくにじ 長岡京跡 (右京三条三坊八町)	ながおかきょうしうじしき 長岡市今里三丁目 地内	32	34°56'09"	135°41'23"	20211101 ↓ 20211223	142m <sup>2</sup>	範囲確認
		28					
		107					
かいじでんごくじんぐ 開田古墳群 かいじでんごくじんぐ 長岡京跡 (右京五条一坊三町)	ながおかきょうしうじしき 長岡市開田一丁目 9、22-5	63	34°55'43"	135°41'48"	20201201 ↓ 20201203	-	鉄骨 2階建
		107					
いまざといせき 今里遺跡 いまざといじき 長岡京跡 (右京四条四坊二町)	ながおかきょうしうじしき 長岡市今里菜師堂 5-41、5-52	32	34°56'01"	135°41'05"	20210113	-	木造 2階建
		107					
こうとういせき 神足道路 ちゅうせいりゆうじき 長岡京跡 (右京七条一坊十六町)	ながおかきょうしうじしき 長岡市神足二丁目 10-18	83	34°55'13"	135°41'56"	20210406	-	遺跡 バトロール
		107					
いのうちいせき 井ノ内遺跡 いのうちいせき 長岡京跡 (右京二条三坊五町)	ながおかきょうしうじしき 長岡市井ノ内 南内塙28-10	15	34°56'27"	135°41'24"	20210614	-	木造 2階建
		107					
くわくこうじんぐ 久保古墳群 くわくこうじんぐ 長岡京跡 (右京九条一坊十町)	ながおかきょうしうじしき 長岡市久貝三丁目 130-42	118	34°54'35"	135°41'57"	20211029	-	木造 2階建
		107					

※ 緯度、経度の調点は調査区の中心で、世界座標系を使用している。

遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
神足遺跡	集落跡	弥生時代	土坑、甕棺え付け穴、小穴、溝	土師器、須恵器、瓦器、陶磁器、炉壁、弥生土器	
中世勝龍寺城跡	城跡	室町時代			铸造関係の炉壁
長岡京跡 (立会第 1244 次)	都城	桃山時代 長岡京期			七条条間小路
神足遺跡	集落	弥生時代	溝、小穴	土師器、須恵器、瓦器、陶磁器	
中世勝龍寺城跡	城館	中世			勝龍寺城の帶曲輪推定地
長岡京跡 (立会第 1251 次)	都城	平安時代			
今里遺跡	集落	弥生～近世	掘立柱建物、溝、土坑、小穴	土師器、須恵器、瓦器、弥生土器、陶磁器、瓦、金属器	
乙訓寺	寺院	平安～近世			
長岡京跡 (立会第 1252 次)	都城	平安時代			
開田古墳群	古墳群		小穴 1 基	瓦器	
長岡京跡 (立会第 20252 次)	都城				
今里遺跡	集落		小穴 1 基		
長岡京跡 (立会第 20286 次)	都城				
神足遺跡	集落		土坑 1 基	土師器、瓦	
長岡京跡 (立会第 21008 次)	都城	平安時代			
井ノ内遺跡	集落		土坑 1 基	土師器	
長岡京跡 (立会第 21067 次)	都城				
久保古墳群	古墳群		土坑 1 基、溝 2 条		
長岡京跡 (立会第 21210 次)	都城				

# 図 版



長岡京跡右京第 1244 次調査

図版



調査地全景（南から）

長岡京跡右京第 1244 次調査

図版  
一一



(1) 調査地全景（北から）



(2) 埋甕 SX03（北から）



(1) 埋甕 SX03 (北東から)



(2) 溝 SD17 土器出土状況 (東から)



(3) 溝 SD17 土器出土状況 (西から)

長岡京跡右京第 1244 次調査

図版四



(1) 土坑 SK18 (北東から)



(2) 土坑 SX12 土器出土状況 (北東から)



(3) 土坑 SX12 土器出土状況 (南西から)

長岡京跡右京第 1244 次調査

図版五



近世の土師器皿

長岡京跡右京第 1244 次調査

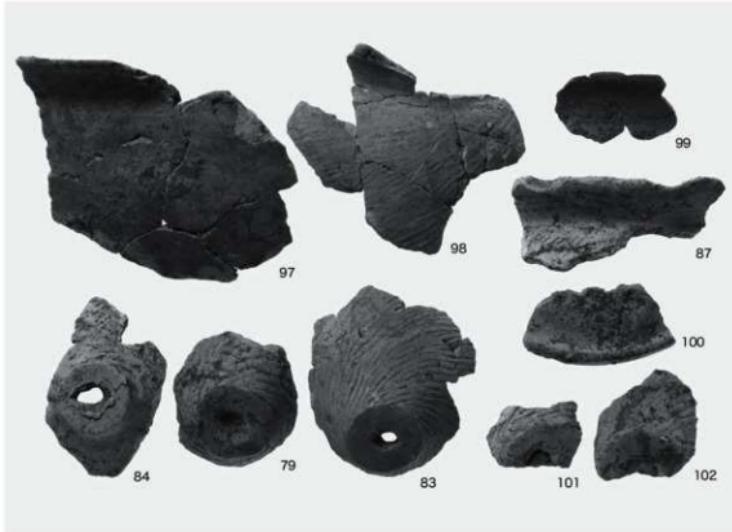
図版六



(1) 中世の瓦器・陶器・青磁



(2) 長岡京期の土師器・須恵器



(1) 弥生土器



(2) 弥生土器・土師器・須恵器

長岡京跡右京第 1244 次調査

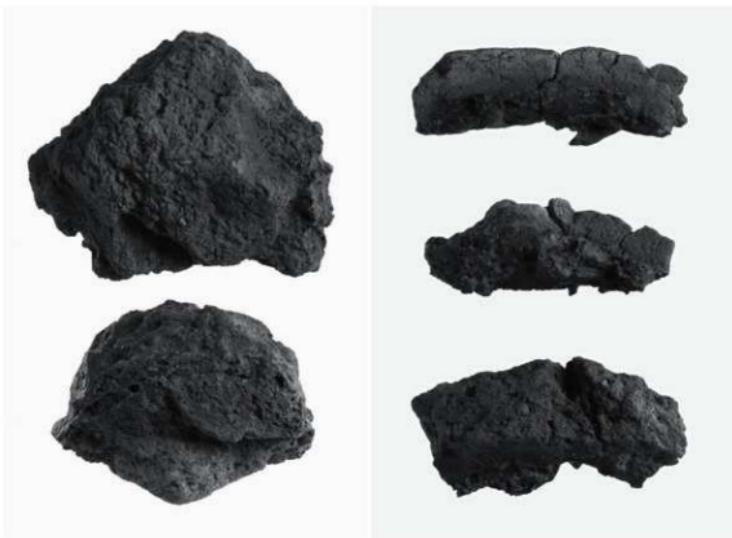
図版八



(1) 砥石・硯・泥面子



(2) 平らな炉壁と金属滓が付着する炉壁



(1) 曲面のある炉壁



(2) 炉壁細片

長岡京跡右京第1251次調査

図版一〇



(1) 検出状況全景（西から）



(2) 検出状況全景（東から）



(3) 完掘状況全景（西から）



(4) 完掘状況全景（東から）



(1) 溝 SD01・02 検出状況（北東から）



(2) 溝 SD01・02 完掘状況（北東から）

長岡京跡右京第 1251 次調査

図版  
一一



(1) 溝 SD02 検出状況（北から）



(2) 溝 SD01 検出状況（北から）



(3) 溝 SD02 完掘状況（北から）



(4) 溝 SD01 完掘状況（北から）



(5) 調査区の堆積状況（北西から）

長岡京跡右京第 1251 次調査

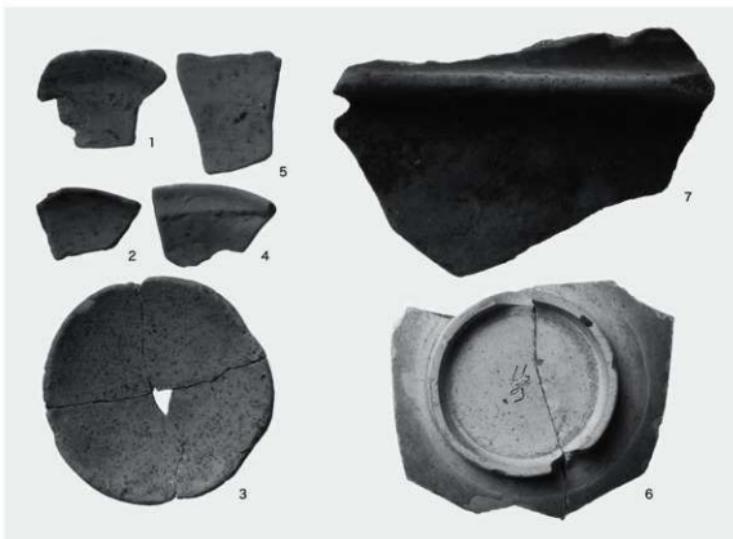
図版二三



(1) 調査開始前（西から）



(2) 調査終了後（西から）



(3) 出土遺物

長岡京跡右京第 1252 次調査

図版一四



調査区全景（南東から）



(1) 調査区全景（東から）



(2) 調査区全景（北から）

長岡京跡右京第 1252 次調査

図版一六



(1) 掘立柱建物 SB101 (北から)



(2) 掘立柱建物 SB101 (南から)



(3) 柱穴 SK18 (北から)



(4) 柱穴 SK18 (南から)



(5) 柱穴 SK18 柱痕跡 (北東から)



(6) 柱穴 SK18 堀形埋土 (南西から)

長岡京跡右京第 1252 次調査

図版一七



(1) 柱穴 SK34 (北から)



(2) 柱穴 SK34 (東から)



(3) 柱穴 SK34 堆積状況 (北から)



(4) 柱穴 SK34 断ち割り (北西から)



(5) 柱穴 SK39 (北から)



(6) 柱穴 SK39 (南から)



(7) 柱穴 SK39 堆積状況 (南から)



(8) 柱穴 SK39 堆積状況 (北東から)

長岡京跡右京第 1252 次調査

図版一八



(1) 掘立柱建物 SB102 (東から)



(2) 掘立柱建物 SB102 南柱列 (東から)



(3) 掘立柱建物 SB102 北柱列 (東から)



(4) 掘立柱建物 SB102 北柱列  
(西から、手前は SK34)

長岡京跡右京第 1252 次調査

図版一九



(1) 柱穴 SK21 検出状況（北から）



(2) 柱穴 SK21 剣削状況（南から）



(3) 柱穴 SK21 堆積状況（南東から）



(4) 柱穴 SK21 堆積状況（北東から）



(5) 柱穴 SK22 検出状況（北から）



(6) 柱穴 SK22（南東から）



(7) 柱穴 SK22 堆積状況（西から）



(8) 柱穴 SK22 堆積状況（南東から）

長岡京跡右京第 1252 次調査

図版  
〇



(1) 柱穴 SK23 (南東から)



(2) 柱穴 SK23 堆積状況 (北から)



(3) 柱穴 SK23 堆積状況 (北から)



(4) 柱穴 SK35 検出状況 (西から)



(5) 柱穴 SK35 掘削状況 (西から)



(6) 柱穴 SK35 掘削状況 (東から)



(7) 柱穴 SK35 堆積状況 (西から)



(8) 柱穴 SK35 堆積状況 (東から)

長岡京跡右京第 1252 次調査

図版二



(1) 柱穴 SK38 (南から)



(2) 柱穴 SK38 (北から)



(3) 柱穴 SK38 堆積状況 (南東から)



(4) 柱穴 SK38 堆積状況 (北西から)



(5) 柱穴 SK24 検出状況 (南から)



(6) 柱穴 SK24 (北から)



(7) 柱穴 SK24 堆積状況 (北西から)



(8) 柱穴 SK24 堆積状況 (南西から)

長岡京跡右京第 1252 次調査

図版二三



(1) 柱穴 SK25 検出状況（北から）



(2) 柱穴 SK25 検出状況（北西から）



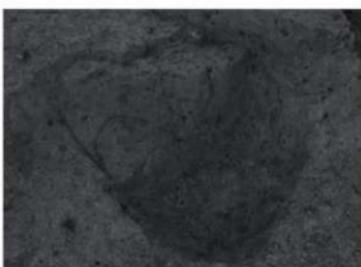
(3) 柱穴 SK25（北から）



(4) 柱穴 SK25 堆積状況（北西から）



(5) 柱穴 P43（北から）



(6) 柱穴 SK28（南から）

長岡京跡右京第 1252 次調査

図版三



(1) 土坑 SK07 土器検出状況（北西から）



(2) 廃棄土坑 SK13（南西から）

長岡京跡右京第 1252 次調査

図版一四



(1) 土坑 SK16 (南から)



(2) 土坑 SK16 (南西から)



(1) 瓦溜まり SX10 (南西から)



(2) 瓦溜まり SX10 (南から)

長岡京跡右京第 1252 次調査

図版二六



(1) 土坑 SK27 (北から)



(2) 土坑 SK37 (東から)



(3) 土壙墓 SK31 (北東から)

**長岡市文化財調査報告書 第78冊**

令和4（2022）年3月25日 発行

編 集 公益財団法人 長岡市埋蔵文化財センター

〒617-0853 京都府長岡市奥海印寺東条10番地の1

電話 075-955-3622 FAX 075-951-0427

発 行 長岡市教育委員会

〒617-0851 京都府長岡市開田一丁目1-1

電話 075-951-2121（代）

印 刷 山代印刷株式会社

〒602-0062 京都府京都市上京区寺之内町通小川西入

宝鏡院東町588番地

電話 075-441-8177 FAX 075-441-8179

